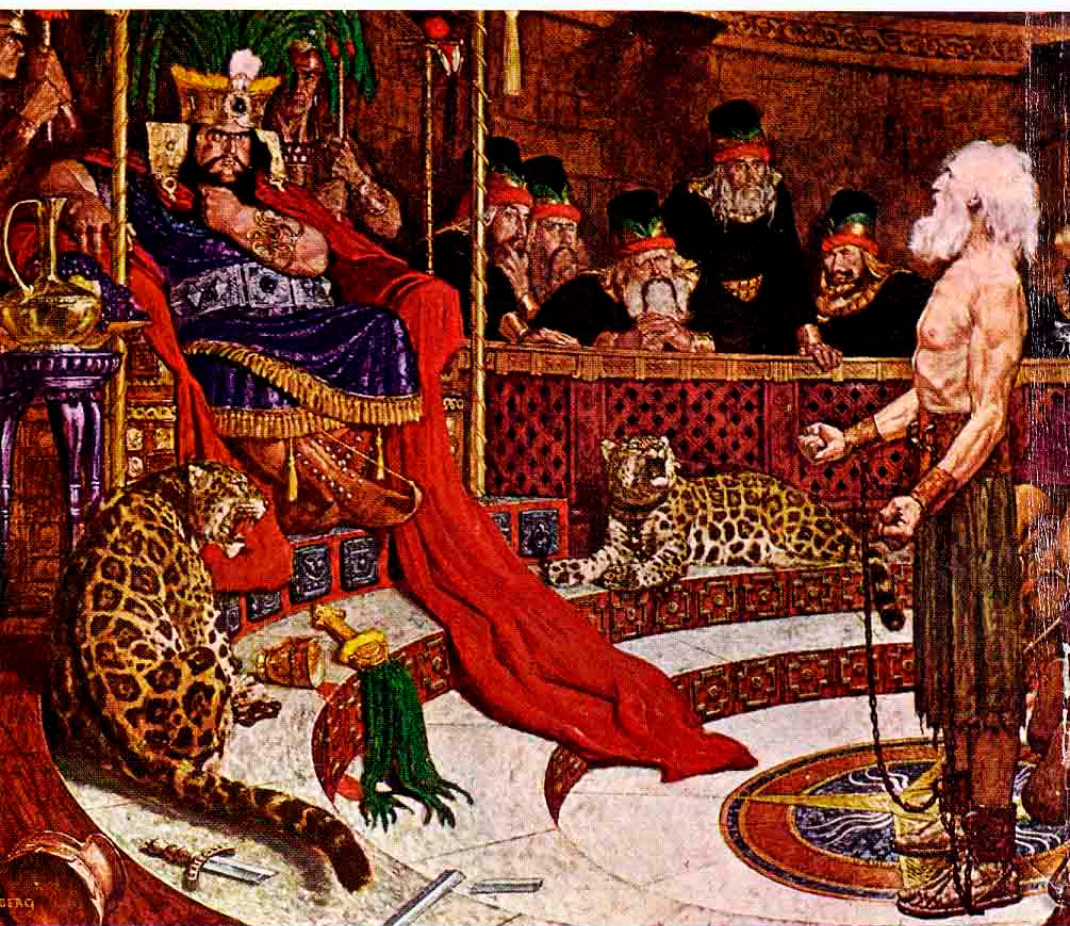


道徒の聖

SEITO-NO-MICHI

一九六八年三月十七日第三種郵便物
認可（毎月一回一日発行）
第七卷第四号 一九六三年四月一日
発行



4

1963

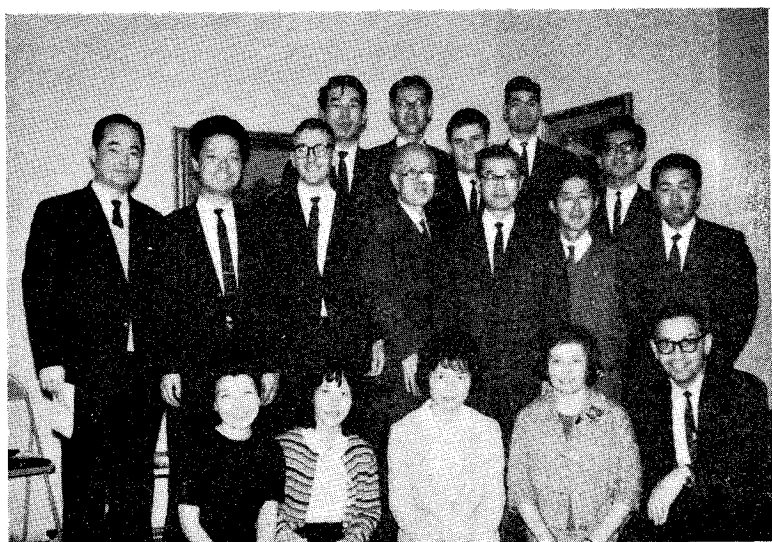
末日聖徒イエス・キリスト教会

The Seito no Michi

Volume 7, March 1963, Number 4

In this Issue

A Prophet's Voice: The Resurrection.....	President David O. McKay...	206
President's Message.....	President Dwayne N. Andersen...	209
Mormon Doctrine (36):		
Priesthood Organization (in Mission)....	Brother Tatsui Sato.....	211
Loyd's wonderful disciples....	Brother Ryotaro Kanzaki	214
Essentials in Church History (35).....	President Joseph Fielding Smith...	223
Branch News		219
Mission Headquarters News		228
Aaronic Priesthood: Branch Teaching Lesson (for April.)		229
Melchizedek Priesthood Quorum		238
Church Articles (for May).....		230
Genealogy Guide (for May)		
Sunday School Guide for J.S.S. (for May)		
Sundy School Guide (for May)		
Hymns for Exercise (for May)		
MIA Leader (for May)		
Mission Mother's Message		243
Relief Society Lessons		245
Literature—Theology—Social Science—Visiting Teacher Message		
Work Meeting		
GOSPEL IN ENGLISH.....	Sister Maren Mouritsen...	262



東、西、北海道の地方部長と、伝道部役員、指導者の特別
集会が開かれた。1963年3月3日

聖徒の道

第七卷
第四号

一九六三年四月号

神を信ずることは

神を信用することである

それなら、僕も知っている。

知っているなら、行いにあらわせ

西中央地方部

関西 L.D.S. →

コーラス



福岡支部 →





← 広島支部

放蕩息子



← 金沢支部

勸進帳

冬期大会



大会テーマ
足シオンの地上

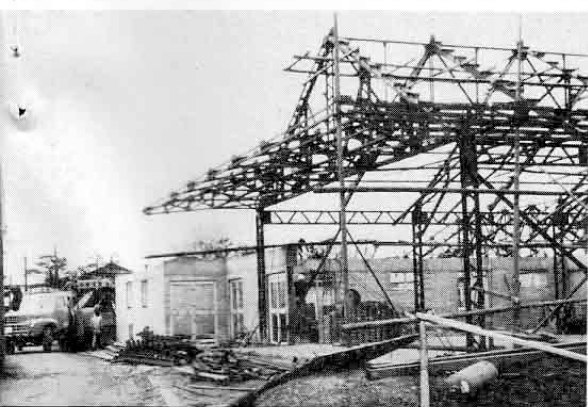
東 Toshiba 芝



← ↑ 東京西支部教会堂建設
急ピッチ



西支部会員たちは、宣教師たちにま
じって、週平均21人、82時間の働き
を示している。



← 東京北支部

鉄骨が生きもののよう延び、いよいよ
完成も近づいている。



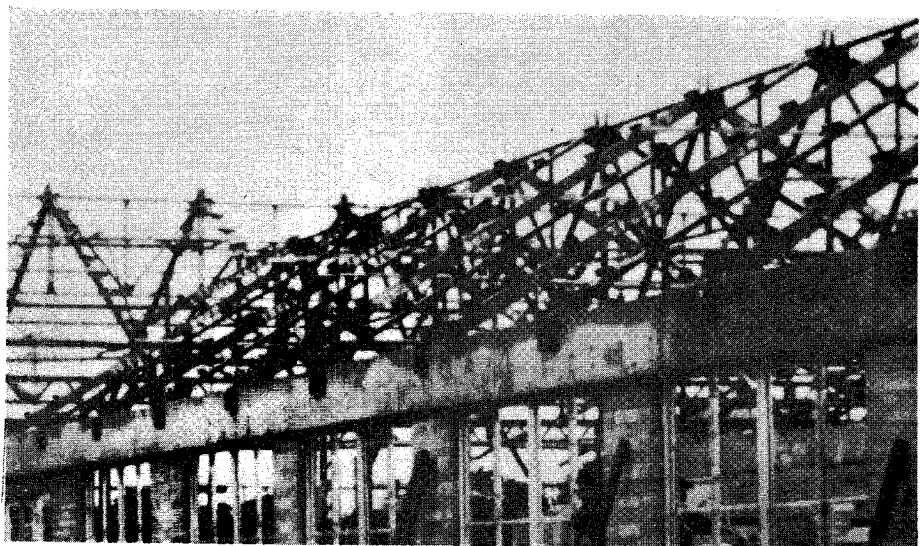
東京南支部

左上、MIA演説祭。左下、MIA役員 右、MIAバレンタインデー



岡町支部

豊中市訪問2月14日
岡町支部宣教師八人が、藤戸市長を訪れ会談した。
前列中央藤戸市長



目次 聖徒の道 一九六三年四月号

予言者のことば

復活

伝道部長メッセーじ

大管長 デビッド・O・マッケイ……203
ダウエン・N・アンダーセン……209

モルモンの教義(三十六)

211

神権者の組織 (伝道部に於ける神権定員会)

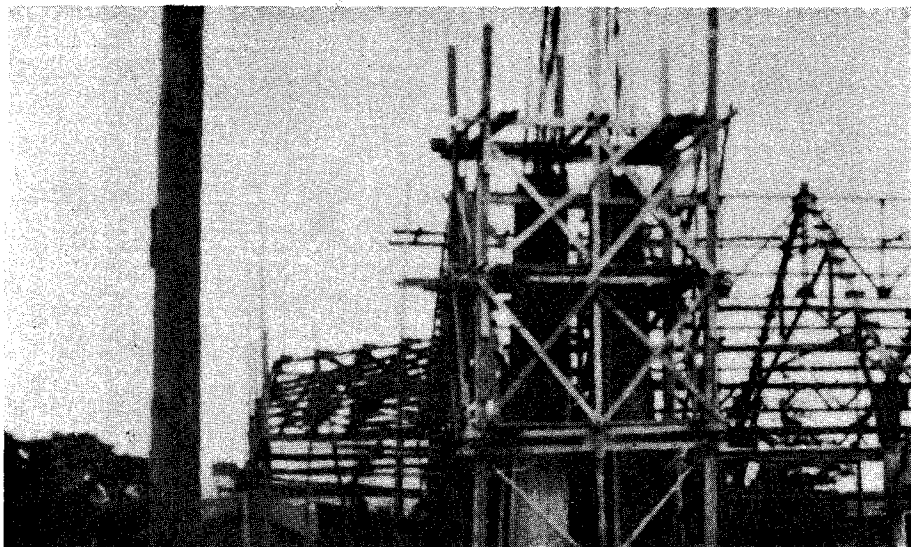
佐藤 龍猪

主のすばらしき弟子(上)

神崎 良太郎……214

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹 (三十五)

ジョセフ・フィールディング・スミス長老……223



アロン神権ブランチ・ティーチング・レッスン(四月用).....	229
メルケゼデク神権、第一長老定員会(四月用).....	238
系図の道じるべ(五月用).....	230
子供の日曜学校ガイド(五月用).....	232
練習の讃美歌(五月用).....	235
日曜学校ガイド(五月用).....	234
M I A リーダー(五月用).....	239
伝道部扶助協会長メッセージ.....ペギー・ヒュイシ・アンダーセン...	243
ジョセフ・スミスの生涯(6) (扶助協会文庫用レッスン).....	245
扶助協会レッスン.....	252
支部だより.....	219
伝道本部だより.....	228
英会話テキスト.....	262



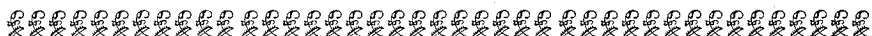
予言者のことば

復活

大管長 デビッド・O・マッケイ

復活をつけることばほど、人間にとってもっともなぐさめとなりもっとも栄光にみちていることばはない。ナザレのイエスは私がいま生きており、あなたがいま生きておられるとおり生きておいでになった。イエスは十字架にかけられ、殺されなさったが、イエスの霊はその肉体が墓の中によこたわっていたあいだもなお生きていて、昔ノアの時代にこの世に生きていた人々の霊に福音をお説きになった。それからイエスは復活して（その体が復活体となり）、死は征服された。まもなく、イエスは復活したお方として聖地（パレスチナ）にいたイエスの民にも、また新世界（アメリカ）にいたイエスの民にもあらわれて導きとめぐみをほどこしなされた。

キリストが死人の中からよみがえり、十字架にかけられたあともなお生きて「ノアの時代に箱舟がつくられていたとき」生きていた人々の霊がいた霊界の「ひとや」へ行つて、この者たち福音をお説きになったのであるから、あなたがもっとも愛



している人たちも、あなたや私にとって応答はないけれども、
眞実存在しているかあなたの世界に生きているのである。

この保証があるので、永遠の律法に従うことは重荷ではなくて当然喜びになるはずである。なぜならば生命は喜びであり愛であるからである。死をもたらずものは不服従である。キリストとその律法に服従するならば生命を得る上に「永遠の生命」まで得られる。

使徒パウロは、コリント人への第一の手紙の中で

「しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として死人の中からよみがえったのである。

それは、死がひとりの人によってきたのだから、死人の復活もまた、ひとりの人によってこなければならぬ。

アダムにあつてすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあつてすべての人が生かされるのである。

ただ各自はそれぞれの順序に従わねばならない。最初はキリスト、次に、主の来臨に際してキリストに属する者たち」

(十五〇二十一—二十三) としている。

私とおなじく福音のために働らいている兄弟姉妹よ、この聖句は、もしもあなたが父親か母親かをすでにうしなっていると
しても、その父親か母親はまだたしかに生きている、ということ
を伝えているのである。死んでしまつても個性はなお存在して
いる。心臓のこどりは止まらなかつた。両眼の光はきえて
しまつた。神経の反応はなくなつてしまつた。肉体は、人間の
本体がかつてやどつていた粘土の宿にすぎなかつた。しかし、
その本体、その個性はまだ存在している、そしてなお生きてい

て反応があるのである。

十字架にかけられたもうたイエスのように私たちの心臓のこ
どりが止まつてしまつても、私たちの霊は死なないでまだ生き
ている。これが復活の祭が世の人々につたえる唯一の結論であ
り唯一のことばである。霊は死にたくても死ねない。いわゆる
肉体の死は霊に何をするこゝでもできない。

人は復活をするときに霊と体が相合して不死不滅の体をもつた者となる。

あなたがた世の母親たちよ、もしもあなたがたがもつとも愛する者や、おきな兒や、年若い息子や娘を葬つたとして、あなたがたはそれが万事の終りであると思われたか。肉体の死が万事の終りでないことを確信しなさい。死がおきな兒を沈黙させた。そのおきな兒はもはや物を言うことはできなくなつた。そのおきな兒はあなたの愛にこたえることはできなくなつた。しかし、眞実そのおきな兒はいま生きていますのである。そのおきな兒はいま靈界に生きています。これが、末日聖徒イエス・キリスト教会が世の人々にはつきりつけることばである。それは、まことの教会はかならず「人間は不死不滅」であるという永遠の原則を基にしてその上に立つてゐるからである。キリスト御自身は、ジョセフ・スミスに御あらわれになる千八百年ほど前に、十字架にかけられて死にたもうたが、死人の中からよみがえつて十二使徒やそのほかの人々に御あらわれになつた。もしも、死なねばならぬ体をもつた人間として三十三年ほどの間の世に生きておいでになつたイエス・キリストが、死んだあとにもなお生きて「この神権の時代」に御あらわれになつたとした

ら、この世に生を受けた各々の人も、この世で応答を得ることができないが、真実霊が生きて動き個性をもっている霊界で生きているという確信をもつてであらう。

復活を信ずるということは同時に人間の不死不滅を信ずることである。イエスは、死ぬべき身をもった人間の受けるあらゆる経験をあじわって、幸福が何であるか、苦痛が何であるかを知り、ほかの者たちと共に喜び共にお悲しみになった。また友情が何であるかを知ると共に、裏切り者やいつわりの訴えをする者たちが蒙らせる悲しみが何であるかもお知りになった。イエスは神の子でありながら、イエス以外のすべての人間の死とおなじ人間としての死をとげたもうた。イエスの肉体は死んでも、その霊はなお生きて、その体と結合して復活をしたのであるから、あなたも私もかならずこの通り復活をするにちがいない。私たちは、主の賢いみこころのなかにある時がくると復活体をもってよみがえるにちがいないという楽しい確信をもっている。それから、私たちの霊と体との結合体（復活体）は、いつまでも生きてふたたび死をあげわうことがないにちがいない。

末日聖徒イエス・キリスト教会はペテロ、パウロ、ヤコブその他のほか、イエス・キリストの復活を単にまったくの事実として受け入れるだけでなく、地上におけるイエス・キリストの神聖な使命の完成であると信じているすべての使徒たちと一致している。キリストが死んでからもなお生きたもうたように、人間の一人一人は、復活してから自分のもっとも適している場所へ行くにちがいない。



伝道部長メッセージ



伝道部長
ダワエン・N・アンダーセン

「これらのモルモン教徒に注目せよ」！ 今から一世紀前に、これらのモルモン教徒は人がけいべつしてすておいた地の無情冷酷な荒野の中に、一つの王国の基礎をきずいた。今日彼らは道にまよっている世の人々の真中において、霊の第一線の開拓者として活動をしている。

これはアイオワ州立大学 宗教学部のマーカス・バツハ博士の言ったことばであります。私たちの教会の会員だけでなく、会員以外の著名な人々もまた「この大きな石がころがり出て全地を満たす」という事実の証拠を目の前に見て認めています。予言は事実となつて現われています！

教会の会員は一人のこらず、人類にめぐみを与えるこの偉大なプログラム的一部分となつて働らくことができます。過去二ヶ月にわ

たり、私たちはこの石に手をかけて石のころがり行くのを助けることのできる二つの面を考えてきました。その一は教会堂建築計画に時間とお金とをささげて助けを与えることであり、その二は私たちの隣りに福音を教えて助けを与えることであります。今月私が伝えることばは、教会での働らき、すなわち教会組織を通して会員である聖徒たちを完成することについてであります。「そして彼はある人を使徒とし、ある人を予言者とし、ある人を祝福師とし、ある人を会長会の役員、教師としてお立てになった。…聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ…全き人となり…かしらなるキリストに達するのである」(改訳エペソ書四〇十一―十四)。

教会員一人一人は、教会の中で何か仕事をもっているべきであります。教会員一人一人は、聖徒を完成させるために、また「大きな

石をころがす」ために現在働らいているべきであります。その任務や仕事が多とえどんなものであっても、ともかく一人一人は指導者たる任務をひきうけているのであります。

「将来指導者になるはずであるならば、何をすることができか」。次に指導者になる道を示す四ヶ条の提案を示します。

(一)準備。準備をしないさい。あなたのしなければならぬことと任務とを知って下さい。あなたに指図をする人々、あなたを監督する人々、またはあなたの指導者たちがあなたに期待していることを知って下さい。それから、この人々の勧告と指示に従って下さい。学問という泉から知識を吸収しないさい！。指導者は指図をする人であり、協同して働らく人であり、理想をもっている人であり、計画をする人であります。すべて指導者は、為さねばならぬことに對して準備をしていなくてはなりません。

(二)実行する人になること。指導者であることは、まず何を為すべきかを知ったら、次にそれを実行することです。今日していなければならぬ任務を明日まで延ばしてはいけません。指導者になるには、人よりも長く働らき、時には夜も眠らずに働らかななくてはなりません。一日八時間だけ働らいていて偉大な指導者になったためしがありません。指導者になるにはつらい仕事と努力がいります、それも今日。

(三)人間関係。すべて指導者はほかの人々と一しょになつて働らく能力を発達させなくてははいけません。故アダム・S・ベニオン使徒は次のように言われました。

「あなたが指導者として為すようにいつも求められる第一のことは有能な人々を見つけることである。それであるから、あなたが人

々と、その人々が何かをしようとする動機と、その人々を動かすものを知ることがひじょうに大切である」と。すべて指導者は、有能な人々を見つけないだけでなく、能力をもっている人々に責任を与えることも知らなくてはなりません。人々に任務を与えない、それと同時にその任務を遂行するに必要な権能と機会も与えない。多くの中には、人に責任を与えるがその責任に伴なう権能を与えないで指導者になるのを望んでいる人々があります。支部長の職に在る人々は、とくに責任を委託することをおぼえてはなりません。これによって支部長は各自の肩の荷を軽くすることができ、同時に自分のほかにも指導者を出すのであります。ベニオン兄弟もまた「あなたの部下の人々と共に働らき、指導し、またこの人々が各自もっている一番よいところを出すように働らきかける能力をもっていることが指導者となる要点である」と言いました。

神の賜物を使いなさい。神権、信仰、祈り、愛、柔和、忍耐、親切、知恵などは、数ある神の賜物の中から挙げるのできるいくつかの賜物であります。私たちは指導者として、これらの天の賜物を利用しないではいけません。指導者の地位に在る人々は、今日「みたま」の中に歩いています（正しい生活をしています）。すべて指導者は、自己訓練と自己計画と信仰の実践と仕事の実行とによつてつくられます。私たちは今日ただいま、指導者としての行いをしようではありませんか。私たちは今日ただいま、あの大きな石に手をつけて、全地を満たすまで、ころがすために力を出そうではありませんか。

日本人の中に行なわれているみわざの発展のためにこれまで多くの集りが開かれています、その中で最も意義（二一三頁に続く）

「神権者の組織」(伝道部に於ける神権定員会) (四)

「教義と聖約」第百七章



佐藤 龍 猪

アロン神権定員会 (つづき)

八、アロン神権者の任務

アロン神権個人賞プログラムの中で「遂行した神権者の任務」として認められる活動は次に誌すものにかぎられる。

祭司の任務

一、バプテスマの執行 二、聖餐のパンを裂き水をわけること (祝禱を含む) 三、ブランチ・ティーチング 四、聖餐の卓を準備する 五、集会に於ける案内 六、聖餐をくばる 七、聖餐会で話をする 八、聖餐会で聖句を拝読する 九、支部長のメッセンジャーを勤める 十、断食献金を集める 十一、集会場の整理、清掃その他の世話をする 十二、会員に集会の通知をすること。

教師の任務

一、ブランチ・ティーチング 二、聖餐の卓を準備する 三、集会に於ける案内 四、聖餐をくばる 五、聖餐会で話をする 六、聖餐会で聖句を拝読する 七、支部長のメッ

センジャーを勤める 八、断食献金を集める 九、集会場の整理、清掃その他の世話をする 十、会員に集会の通知をすること。

執事の任務

一、聖餐をくばる 二、聖餐会で話をする 三、聖餐会で聖句を拝読する 四、支部長のメッセンジャーを勤める 五、断食献金を集める 六、集会場の整理、清掃その他の世話をする 七、会員に集会の通知をする。

九、成人の改宗者もアロン神権の職の経験をもつべきこと。

教会員となった成人の会員 (男子) の按手聖任については、支部長会は大管長会から発せられた指示に従う。すなわち、

「伝道部に於いて教会に加入した男子の会員が、信仰と誠実なところによって福音の原則を守り、神権を受けるに足る資格のあることを示すときには、まずこれらの会員を執事に按手聖任するのが適當である。そして、この職に於いていくらかの経験を積み活動を行なった後も、ひきつづき成長と安定とを實際

に示すならば、まず教師に按手聖任し、然る後祭司に按手聖任するがよい。これらの会員はアロン神権の各職を歴任して働らきをすることが望ましい。アロン神権の各職にどれくらい長く留まるべきかは各自の発達と忠実の度によることである。」

(伝道部長手引きより)

十、アロン神権の中の各職に按手聖任をする権能。

アロン神権の中の各職に按手聖任をする権能に関するところへつな指示が大管長会から出ている。すなわち、

「神権に按手聖任することは伝道部長が直接に監督して行なう。もし適當であると思うならば、伝道部長は支部長がアロン神権に按手聖任する権能を承認してもよい。支部長会は伝道部長からこのような権能を委任されなければ、アロン神権に按手聖任をしてはならない」 (伝道部長手引きより)

十一、聖餐のパンを裂き水をわけること。聖餐のパンを裂き水をわけける権能をもって

いる者は、アロン神権の中では祭司の職にある者だけである。パンを裂くときには「フイングーボール」(指先を洗う鉢)を使用し、手指を乾かしたらすぐパンを裂かなくてはならない。パンは大きすぎず小さすぎず、ころ合ひの大きさに裂くべきである。

教師は、聖餐の始まる前に聖餐式の卓を準備し、清潔なリネネルをその上に置き、紙コップを整備し、盆を卓の上に置くなどの用意をしてもよいが、聖餐会が開かれたら、教師はどんな風にも、聖餐の卓に向かって祭司の手助けをすべきではない。しかし聖餐をくばることは祭司、教師、執事のいずれが行なってもよい。

聖餐のパンを裂き、水をわけ、祝禱をささげ、聖餐をくばる等の職務を執り行なう会員はすべて、この神聖なはたらきに対してけいけん態度を持つべきである。

十二、アロン神権者たちのブランチ・ティーチング。

ブランチ・ティーチングを行なうときには、祭司および教師に按手聖任されている会員のすべてに対し、ブランチ・ティーチャーとして働らく機会を与えるべきである(「教義と聖約」の二十四・四十六・四十八、五十三―五十六参照)。もし必要があるときには、執事にもブランチ・ティーチングをするようにたのんでもよい(「教義と聖約」八十四〇百十一参照)。

二十一才以下のアロン神権者がブランチ・ティーチングをするに当っては、二十一才以

上のアロン神権者もしくはメルケゼデク神権の保持者と二人組んで行なうように任命すべきである。ブランチ・ティーチングを行なう場合の細則は伝道部長から与えられる。

十三、アロン神権の回復を祝う記念祭。

アロン神権は千八百二十九年五月十五日に回復された。各支部はこの回復を祝って毎年記念祭を催すべきである。

毎年五月十五日に最も近い土曜もしくは日曜をもって、バプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリヴァ・カウダリを訪ずれてアロン神権を授けたことを記念する日にあてている。普通、土曜には教会に関係のある史蹟を訪ねてまわつてあるとか、運動競技の会を開くとか、そのほかの活動をする。そして日曜の聖餐会に於いてアロン神権回復に關するこまかいことを想起し、神権の権能が回復したことによって生じている多くの祝福を聖徒たちにはつきり覚えさせる。

この日にさきだつ一・二ヶ月前に、管理監督会はインプルヴメントエラ誌の管理監督のページ、およびデゼレトニュース紙のチャイセクションに、五月十五日に最も近い日曜日に行なわれる聖餐式のためにあるプログラムを提案するのが望ましい。もしも伝道部長からとくべつの指示があれば、各支部は自由にこの管理監督会の提案を採用してアロン神権の回復を祝うプログラムにしてもよい。

十四、支部が組織されていない地方にいるアロン神権者。

十二才以上になっているがまだアロン神権に按手聖任されていない男子の会員で、支部が組織されていない地方に住んでいる者については、とくべつの配慮をしなくてはならない。

専任宣教師たちは、このような地域にいる聖徒を訪問するときに関心を抱いて訪問すべきである。

十二才になったもしくは十二才以上になっている男子の教会員で忠実な者たちには、すみやかに全員がアロン神権を受けられるように、あらゆる努力をして準備をさせるべきである。

アロン神権の保持者はすべて、アロン神権者の責任について教えを受け、アロン神権の中で昇進するように準備をしなければならぬ。

すべてこのような場合に、専任宣教師はいろいろな条件を勘案して満足が行ったなら、その候補者をアロン神権に按手聖任すべきかまたはアロン神権の中で昇進をさせるべきかを地方部長に指摘すべきである。すると地方部長はこれを伝道部長と共に相談し、伝道部長はすべての推薦に対して意見を述べて按手聖任や昇進を行なうべきや否や、また行なうとすればいつ、誰によって行なわれるかを指示する。

支部がまだ組織されていない地方で働いている専任宣教師は、すでに神権に按手聖任されて教会の教えを実行している人々に神権の職を実際に行なう機会を与えるように努力

するがよい。

アロン神権の中のどの職にある者が、どんな任務を行なうべきかは本稿八「アロン神権者の任務」を参照のこと。

十五、定員会に出ない会員との連絡。

支部長会および支部の指導者たちは、その支部の中に組織されているアロン神権定員会もしくはグループの集会に出ない会員には努めてはげましを与えるようにしなければならない。またほかの土地へ行っている会員一人一人に、毎月一度はげましの手紙を出すならば大きな力になるにちがいない。

十六、アロン神権定員会（グループ）に関する報告。

アロン神権定員会（グループ）の進捗状況に関する報告は、伝道部長の要求に応じてその時々提出し、伝道部から支給される用紙に記載する。

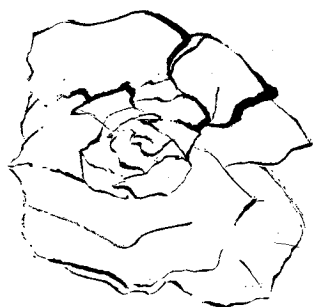
十七、アロン神権定員会の活動に関する通信の送り先。

支部および地方部におけるアロン神権定員会の活動中とくに目立つものに関する通信は伝道部長にあてて送るものとする。伝道部長はアロン神権定員会の活動に関する自己の通信を大管長会にあてて送る。

（「アロン神権の手引き—伝道部」より）

（二一〇頁続き）

ある集りが、去る三月の二日と三日の両日にわたって東京で開かれました。この二日間、北海道地方部、東中央地方部および西中央地方部の各地方部長は、伝道部長会と共に「ゼミナー」を開いてびじょうな成功を収めました。この「ゼミナー」の結果は、日本におけるみわざの将来の成長と発展の中にあきらかにあらわれるにちがいありません。この成長は、あなたがた支部長会の役員、補助組織の指導者、および会員各自が、これらの地方部指導者たちを通して責任をひきうけ、その上これら指導者の勧告と指示と指導に従うときに事実となつてあらわれるにちがいありません。



◎ 驚いた話

「奇妙な人々とはアメリカにおけるモルモンの別称である。確かにモルモンとは不思議なことを当り前といった顔をしてやるものである。奇妙なという言葉の中には、自分達が考えもつかぬようなことをよくまあやるものだという驚きと嘆息が混っている。

その奇妙な人々が日本でも奇妙なことをやり始めた。衆知の如く、神様の計画下にあつて教会堂を建てることは必須重要事項である。この日本の地にも長年の念願がかなつて東洋最初の教会堂が建ちかかっている、ところが、その建築方法が風変わりである。第一に、四千万円以上のものを建てるというのに、建設会社頼まず、モルモンの設計でモルモン自らの手で建てるという。第二に、では人海

主の素晴しき弟子(上)

作戦で建てるのかというときいざい十人位の専門に働く人と、パートタイマーで八、十カ月で完成させるといふ。しかも働く人は全くの素人なのだ。第三に勤勞奉仕宣教師制度の採用である。せちがら日本の社会で、一日や二日ならともかく、自分の貴重な時間や仕事、勉強などを放り出し、二年間も奉仕しようとする人などいるのかと一般の人は考えるであらう。くわ入れ式後、現場にいてみるといかにもカーバンターといった風情の大男のアメリカ人と。皮の長靴に小ざつぱりとした作業衣、腰には七つ道具を帯びたりしい感じの若い男性が六、七人、黙々と仕事をしている。日がたつうちに基礎工事は完了し、ブロックは積み上げられ、鉄骨が頭上にまたがっていった。大きな建物が次第に形を整えていつていたのである。全く驚いた話ではないか。計画通りなのである。勤勞奉仕宣教



師制度に応じた人もいたのである。一人や二人ではなく十四人も。この人々が、いかに素晴らしく、勇気があってクリスチャンの名にふさわしいかは、次の一つの質問を発するだけで十分理解されることであろう。「あなたは今すぐ、あなたの大切なものを、この制度に応じられますか。」

◎ 勤労奉仕宣教師とは？

字面だけを見ると、皇居かどこかで掃除の奉仕でもする人かと思われるが。モルモン教会の会員であって教会堂建設という使命をもって二年間奉仕するため、神様によって召された人のことである。宣教師というと、福音を述べる人というのが通念であるが、宣教師は英語で Missionary といわれる如く Mission (使命) を持つ人の意である。すなわち、神様の計画にたずさわり、それを推進する使命を持つ特別の人のことである。その使命は、一方は福音を伝えることにより、彼方は教会堂を建てることにより果される。これで彼らを何政宣教師と呼ぶか理解されたことと思うが、私見を加えるのを許されるならば、彼らは信仰を具体的な形として表わし彼らの行動を通して暗黙のうちに福音の真実さを示しているが故に、福音を伝え理解させるという点からみてもすばらしい宣教師であるといえるのではなからうか。

◎ 勤労奉仕宣教師の生活

それでは、ここで自らの利益をなげうって仰せのままにと、召しに応じ、新しい環境に飛び込んでいった彼らの奉仕に明け奉仕に暮れる生活をながめてみよう。

彼らは現在十四人。原宿にある西支部（現在中央支部も使用）の庭の一角に、彼らの根城がある。彼らは定められた日課の下に規律ある生活を送っている。彼らの食事やその他の世話は、奈良兄弟が献身的になさっている。彼らの生活を再生産すべく最低生活費や、散髪、雑用品販売のための小使いは、会員一人当り百円の毎月の基金から支出されている。少し余談になるが、これを私達と関連づけていうならば、若し私達がこの基金を毎月百円を出し惜しみるならば、彼らを窮地に追いやらないとも限らないのである。ところが現在、日本全国から集まってくる基金の七七八割はアメリカのモルモン軍人からだという。日本人は貧乏なのか、ケチなのか、それとも、この基金への認識が足りないのか。さていずれであろう。

6:00	起	祈り	り
6:25	床	の祈	り
6:30	食前	食	発
7:00	朝食	開	始
7:30	出仕	（昼食30分）	
16:30	仕	事終	了
17:30	婦	の祈	寮
17:55	食前	食	強
18:00	夕	勉	動
19:00	勉	由	行
20:00	自	就	祈
22:00	就		

本筋に帰ろう。彼らの一日のスケジュールは別表の通りである。奈良兄弟の許可を得て彼らと生活を共にしたことがあるが、これら

は実によく守られている。夜も明けやらぬ五時前から、奈良兄弟が朝食の準備をなさっているのだらうか、階下でゴトゴトと音がする。六時前、あちらこちらで蒲団がムクムクとより上る。六時には全員起床、彼らは小型トラック二台に分乗して、吉祥寺へ、江古田へと向う。運転は南沢、石川両兄弟。外はピリピリする程冷い、七時半前に現地到着。トラックから飛び下りた。地面はカチカチだ。彼らは元氣よく監督の指示のもとに持場に散っていく。寒さにちなんだ身体も手も、三十分

も土を堀っていると汗ばんでくる。その頃になって勤人が足を速めていくのを見かける。建設中のタワーの上にのぼると風が強くて吹き飛ばされそう。コンクリート、ミキサー車が何台か入ってきた。現場は急に一層活気づく。猫車に生コンをミキサー車から流し込み、何度も往復して用意された木枠のなかに入れる。地盤がゆるい上に、筆者のごとき、か弱き男性では、猫車を引っぱる足腰も、ヨタヨタ、フラフラ。しかし、急がなくては生コンは固つてしまう。このように特別に忙しいとき、もっと会員が助けにこないだろうかと、つくづく思う。又こんなときは、手が足りなくて昼食も寒風吹きすさぶ青空の下で十分そこで終り又すぐ仕事にかかる。決つて楽なものではない。しかし、一言の不平も仕事にきかない。汗を流し黙々と働く。働く手を見せてもらった。傷だらけだ。特に指の関節あたりは、パツクリとヒビ割れて、生々しい肉が顔をのぞかせている。ひどいなあとという監督の手を見ろという。もっとひどい。

彼らは割当てられた仕事ですむと、すぐ監督に報告し、次の仕事を貰う。金や生活のために働く人には絶対見られぬことである。仕事の手順により、割合とのんびりとした日もある。こんなときは、冗談やダ洒落が飛び交う。底抜けに明るい兄弟達だ。監督も実によく指導し、働く。筆者が監督の指導について、つくづく感心したことは、彼は、或る仕事を与えるとき、最初に説明し手本を示す。その後は、すぐ自分の仕事にかかり、決してこの素人に出来るだろうかなどと心配顔などして、じつと無器用な手つきを見守つたりしない。完全に信用し、まかせてしまうのである。こちらがちよつとわからなくなつて、教えて欲しいと思う頃には、ちゃんと、見にきて

くれるのである。このように指導されれば、ズブの素人にでも、出来るとうれしくなるのである。何にも知らなくても、仕事は出来るのである。楽しくなる。会員はもっと来て、仕事を覚えればいいのには、ヘルズ監督の言葉である。

一日の仕事を終つた後の気持はなんとすがすがしいもの。輪になり、感謝の念を一杯に祈りを捧げ、帰途につく。

よごれた身体をシャワーでさっぱりと流し準備された食事をいただく。夜は、建築、福音、英語の勉強、MIA参加などで過す。英語の勉強は監督の指令が英語なる故、必要である。だから建築と同時に英語もマスターしてやれと彼らはガメツク勉強する。

ここで、彼らの生活規則と彼ら自身、この生活をいかに受取っているかをみてみよう。規則については、専任宣教師とほぼ同じである。例えば常に同僚と二人で行動し、日課を励行する。身だしなみをキチンとする。ダンス、登山、水泳、ボート遊び等はご法度、といった具合である。違う点といえば、ダンスはMIA主権のもので集団でする分には構わない。手紙も、姉妹とのやりとりは結構。その中の一人が恋人であってもOKである。これには、「余りひんぱんに、しかも長く書いて時間をとりすぎたり、気持を奪われたりしない程度にすること」と但し書きがついている。

彼らはこのような生活をどのように受取っているか、個人差はあつても、楽しいということについては異口同音である。そして、金の為でもない、生活のためでもないこの奉仕の生活に本当に大きな喜びを感じている。未経験の仕事がスラスラと出来るたびに、神様の力と神様の存在を知つて満足する毎日なのである。何が大きな恵みかといつても、神様の存在を確に知ることほど大きな恵みはな

● 奇しき御業のために

さて、兄弟姉妹。今、素晴らしい兄弟達を主体として、礼拝所とホールだけでも七五〇人も入るといふしかも冷暖房つきのすごい教会堂が建ちつつあることがおわかりになっていただけたことであらう。

このように、日本伝道部史上、一大エポックを迎えて、私達は果報は寝て待てという具合に、安閑としていいものだろうか、今こそ、犠牲を大いに払うべき時ではなからうか。

主は私達一人一人に同じように義務を課せられている。勤勞奉仕宣教師の義務も一般會員の義務も同じなのである。主の御業が進展するために私達會員がなすべきことが少なくとも二つある。一つは忙しいのはよくわかるが一時間でもいいから時間をさき、働きにいくことである。會員によつて建てるというのであるから、私達がよくべきなのである。勤勞奉仕宣教師のみが會員ではないことを銘記

すべきである。勿論、時間的に無理な人は、お金でこの建築計画に協力することも出来る。アメリカでは、労働がお金かどちらかで協力しているそうである。もっともどちらにも協力しない会員もいるそうだが、第二は、建物が完成したときの受入れ態勢を整えることである。建物が完成し、伝道部からステーク部へと移行する頃には、年に何千何万という人が改宗してくるのは必然的である。しかし現在のように、少数の指導者におぶさっているようでは、到底、増大する新会員を迎え入れることが出来ず、いたずらに混乱を招かぬとも限らない。建物の管理維持も大変なこととなってくる。支部内をしっかりと固めて欲しい。立派な指導者をたくさん輩出させて欲しい。又輩出して欲しい。

現実の協力状態を見てみよう。資金面はさておき、労働時間日数を見ると手っとり早くその協力具合がわかるであろう。二月末日までの労働時間日数の概略は別表の通りである。

勤勞奉仕宣教師	5940
モルモン軍人	740
北支部	790
西々	160
中々	80
南々	10
専任宣教師	110

すなわち日本人一般会員以外の人が86.7%も占めている。これに監督長老の労働時間数を加えると90%にもなろう。使用するのは、日本人一般会員であるの面に、労働時間という、最も協力しやすい面においてさえ、今までの10%しか協力していないのである。働く主体が一般会員であるのに、このようなことであるか

ら、建設が手間とり、完成が遅れそうなのも無理からぬことである。又勤労奉仕宣教師の兄弟達が、「土曜日など外人の方がずっと多くって日本人がチラホラということでは肩身が狭く恥しい位だ」

というのも無理からぬことである。

この原因はなんであろうか、日本の特殊事情を参酌しても、ちょっと勤労奉仕宣教師達だけにおぶすりすぎているのではなからうか。日本人は勤勉なことで世界で定評のあるところである。又、世道に比して決して利己的過ぎる人々でもない。従って、最大の原因は、はじめてこのこと故、建築計画に関する認識（すなわち建物は会員の手でたてる。その建物は他人のものではなく私達一人一人のものであるという認識）が十分ではないことに求められよう。アメリカの例ばかりで恐縮であるが（イギリスその他の国の資料はまだ届いていないため）あらゆる集会で、又集会ごとに、会員が協力するように指導者は呼びかけている。この点、私達はまだまだ呼びかけの認識を深めようとする努力が足りないのではなからうか。

地方の支部の兄弟姉妹も、決して対岸の出来事としてのんびりとしていないで欲しい。今に日本全国に教会堂が建つのである。そのときになってあわてるようでは遅いのである。

末日における、主の奇しき御業は日々に進展している。おさおさ怠りなく、主の御業のために働き準備をしたいものである。勤労奉仕宣教師や建設にたずさるすべての人々に感謝をすると同時に、会員一人一人の認識が、協力が大きくなるよう願ってこの稿をとじる。

神崎良太郎（東京北支部）

編集子注 宣教師一人一人の紹介をした原稿も神崎兄弟にお願いしましたが、今月は紙面の都合で、来月号に載せたいと思っています。



松本支部

支部だより

ヴァレンタインの日よりも一日早く、十三日はMIAにおいてダンスパーティーが行われました。役員によって飾られた会場にフォークダンスが繰りひろげられ、途中、宣教師からアメリカでのヴァレンタインの日の経験話に時を過し、ワルツのデモンストレーションで会を一層盛り上げ楽しいパーティーでした。十七日夜、フアアサイドが開かれ、鎌倉希州兄弟が構成されたスライド「キリストの歩んだ道」は音楽を背景に解説を加えて演ぜられ一時、我々を遠いイスラエルの国へ案内してくれました。カラスライドを観ながら、キリストの苦難の様子を思い浮べたり、奇蹟のしるしを想像したり出来ました。キリストの故地をしのんで、私達は一層強い証詞と信仰を持つ事が出来ました。この恵みと他の機会に他の支部の人にもわかちたいと思いますのでそれを計画中です。

二月にバプテスマを受けられた方は、

菅野正行兄弟

神山ちえ姉妹

神権聖任者

飯田和視兄弟 教師

高坂長生兄弟 執事

音楽委員会が組織されました。(指揮者)

会長 カーター長老

委員 上条和子姉妹(子供日曜学校)

百瀬淳子姉妹(MIA)

伊藤勇夫兄弟(大人日曜学校)

川船節子姉妹(聖餐会と合唱団)

橋本志保利姉妹(伴奏者)

尚、毎日曜日の午後合唱団の練習が行われ

ており、聖餐会に発表されています。

岡町支部

柳田藤吉第一副地方部長を迎え安芸京都支部長の司会のもとに関西五支部合同の第一回求道者大会が岡町支部に於て行われました。

これは当地方部にとって初めての会であつたためにどんな会なのかよくわかりませんでした。しかし出席してみても初めてこの会が重要なものであることを感じさせられました。支部中の椅子を全部動員してもまだ足りない位ホールいっぱい集まった求道者の方々もきつと私達の教会のことを研究してみたいという気持ちにおなりになったことでしょう。

話の間に二重唱やマンドリン独奏等があり終始なごやかな雰囲気の中でした。これからこの様な会をすることによって一人でも多くの人が教会をお知りになることが出来ればと話し合っています。

二月二十八日 MIA 一般活動として例年の如く豊中福祉会館に於てバレンタイン・ダンスが開かれました。社交ダンスの間にフォークダンスを織り混ぜたため社交ダンスの踊れない人も皆と一緒に、壁の花になることもなく踊れ、本当に良い会でした。回を重ねる度に踊れる人の数がふえていることは大変喜ばしいことです。ただ床がツルツルとよくすべったために思い切つて踊れなかったのは残念でした。

東京南支部

いよいよ春の季と成りました。各支部の兄弟姉妹のみなさんはお元気ですか。私達の南支部はちょっと支部だよりをさぼってしまいました。でもみんな元気にやっております。私達の支部も毎日曜日必ずといってよい位バ

プテスマの会があり新しい兄弟が次々とふえています。庭の梅も美しい花をみせ又早咲きのしだれ桜も、梅に続けとばかりに暖かい春の日を浴びて頑張っています。まもなく柳の様な枝に小さなすす桃色の花を沢山つけて庭を飾ることでしょう。しだれ桜の次は普通の桜次に八重桜と順序良く、私の日来らんを待つ準備中です。そんな種々な美しい草木にかこまれた庭には広々兄弟姉妹が集り楽しく遊び、内では勉強をしています。新しい会員の中では教会に来ることを楽しみにしている人々が沢山あります。みんな本当に楽しい教会、いこいの教会、なぐさめの教会、希望の教会、そして日々の救いの教会になるよう頑張っております。

M・I・A

M I Aは種々と大変な活動ですが今度次の人達によって責任を持っていただくことになりました。

YM M I A会長	坂本 欽史兄弟
副会長	小高源太郎兄弟
Y W M I A会長	中川紀世子姉妹
副会長	吉田 道乃姉妹
書記	今村 陽一兄弟

これで約三年振りに形の上では完全な組織に成りました。みんな各々一せ持っている人達です。二月一ヶ月をみてみますと失敗もありましたがまあまあよくやっています。前伝道部長さんではないですがここで数字を上げてみますと毎週の出席者の内教会員が約七十パーセント良い時は八十パーセントをし

めています。会長会のみなさんも会員の方々も頑張っておりますのでじよじよに良い会になる様にと願っています。

二月には演説祭とバレンタインダンスパーティがありました。そこらちよつと取材してみましよう。まず演説祭では男女各三人の弁士が出て弁をふるいました。持時間は十分間で出席者全員に、時間、言葉使い、態度、内容の四項目を記入した審査表を渡して審査してもらい後にその統計を出して司会者が各弁士に批判を発表しました。拍手有りヤジ有り仲々よいものでした。でも、弁論大会でこのような調子で自分の考えをみんなの心に訴える様な弁論がなかったことは残念だった。と会長の感想。ダンスパーティは色テープで美しく飾られたホールの中でフォークダンスを主体としてホールせましと出席者全員が参加し、前からのPRでほとんど運動靴、忘れた人は皮靴をはいて楽しくおどっていました。ホールは若さで一杯といった感じでした。みんなリリッダーに良く協力しすぎて予定より十分位早く閉会となりました。その日のプログラムの表紙にはハートの中にローソクのランブが書かれ横上には次の格言がありました。

欲するものが全て手に入りつつある時は警戒せよ。肥えゆく豚は幸福なのではない。と新年に成って二日より日曜学校、M I Aその他の責任者が変わりました。今まで一生懸命働いて下さった前責任者のみなさん心より感謝し、その後をひきついで新しい責任者、神

権を受けた人々、昇進した人々を紹介しつつ最近の各組織の状況をお知らせ致します。

○バプテスマを受けた人々

飯泉兼義兄弟 奥山真佐子姉妹
辻本清文兄弟 坂本 房恵姉妹
中山 兄弟 内藤 沙子姉妹
百束辰也兄弟 金子テルエ姉妹
渡辺 兄弟

○神権を受けた人々

執事 中村誠男、長瀬義明
○神権の昇進をした人達
教師 小福田史男、小高源太郎、吉川利夫
浅野時夫

祭司 坂本欽史

日曜学校

東京南支部の日曜学校は一月に新しい会長が組織されました。会長 浅野時男、第一副会長 小福田史男、第二副会長 中村誠男書記 中川ヒカルです。新会長はいづれも学生でまさに、名実共に勉強ざかりであり我が支部のホープである。勿論要する当支部の会員は全てホープである。念のためにいわせていただきます。試験シーズンが終え、我々が学生であること——ひまであること——を自覚すれば、日曜学校も増々発展するだろうということは分らないが、するでしょう。とにかく一生懸命がんばろう。ところで私は高校生のクラスの先生なのである。えらく甘たは喜んではいられない。現実はその甘くはないのであった。つまり実際経験してみれば分る。学校の先生の気持ちも分る気がす

支部だより

る。私事に渡って失礼。高校生のカラスを御紹介致します。一月、二月の上旬は極寒の上に試験シーズンと（先生の程度についてはいわないけれど）最悪のコンデション。五人も集まればよい。事実である。それが如何なる心境・環境の変化からか、一やく二月の中旬に二十五名と驚嘆すべき増加を記録したのであった。本当に驚いて、びっくりした。一番うしろの人の顔が見えないのである。照明は良好。且し目が不良であったが、そこで会長協議の結果高校生急増対策として、といて増築は不可能であるが政に、ちよつと大きな部屋へ移ることにしたのである。ここで思い出したけれど。この二カ月間というものの実に教室の変動が激しかった。今ではようやく一段落致しました。ところで奇すしき増加を記録した高校生諸君にここで私、先生氏は言わせていただきます。「君達は我が支部のホープである」。

日曜学校全体として出席者が増えつつあるのはうれしいことです。季節、会長会、会員全て良し、これからの発展を皆さんと共に祈りたいと思います。

(中村誠男)

仙台支部

三月ともなれば毎年のことながら地方支部では学生が卒業し就職それも中央に出て活躍するために今迄共に育った支部を去る人が多い当仙台支部でも活潑な会員で今春大学を卒業し上京する会員が五名もいる。

仙台支部では今年から新たに予算委員が組織され、その第一回行事として一月一日と一五日に教会ホールに於いてバザーを行った。食品関係は皆さんがいつも行われているものと変りがありませんでしたがこのバザーの中に私達は紙谷姉妹の発案で『のみの市』を行った。これが非常に成功した。利益もありバザー全体をととても楽しいものにした。会員が不要になったものを教会に提供し大安売りする訳である例えば衣類、ネクタイ、ハーモニカ、等は宣教師の中で自分の写真にサインをして五〇円で出していた強心臓？もいた。（五枚くらい注文があった）

初めてのころろみなので提供者の品が売れた場合その半額は本人に返戻という公約で行った。皆様の支部でもバザーの時試してみても如何ですか？

又予算委員会は建設資金その他のために事業をこころみその手始めとして英語教室を開いた。これは宣教師を頼らずアルバイト料を出してのもです。私達は昨秋新しい扉や電気の入ったカンパンそして新しい部屋に恵まれましたがだんだん増える会員求道者のためにももっと増築又は新築設備を揃える様に働かねばなりません。

仙台支部にビーハイブ委員会誕生す。これは以前から支部長会始め会員が考えていた新しい会員が良く成長するために助けとなるためのものである。一月号に北支部の神崎兄弟が提案して下さった案が大変助けになったことをここで感謝します。ありがとう。

西宮支部

委員長は福田真兄弟
二人の兄弟主の期待に応え、その責任を果たす。仙台支部では昨年二人の若い兄弟が非専任宣教師として召された。彼等は小林孝司兄弟と中田力兄弟である。彼等は実に忠実にその責を果し短期間に有能な兄弟姉妹を多く教会に導いた。そして二月三日に彼等は優秀の美をもつて解任されました。主の喜び給う息子達である。

他の伝道部で大変成功していると聞いているが仙台の宣教師も伝道にスポーツプログラムを取り入れ。彼等は得意のバスケットボールを生かし毎週火曜日一般にバスケットボールのコーチを行っているそれを並行して各学校に行き学校のチームと試合を行っている。そのうち優秀なモルモンチームが出来るでしよう。

冬来たりなば、と云う言葉があります、二月も中ば過ぎるとなぜかホツとした気持ちになります。三日に一度位は早春のやわらかな陽ざしを感じられる今日この頃です。

(スライド観賞)

二月十七日の安息日五時から特にフアイヤーサイドを開きパルマ長老の司会でユタ州B Y U のスライドを見せて頂きました。雄大な山々を背景に広々とした校舎、図書館、寮、食堂と、ルイス長老御自身で撮って来られたと云うこの写真は私達にも本当に身近かな観

しみを感じさせるものでした。そしてその美しい景色や設備の素晴らしさには日々感嘆するばかりでした。この様な恵まれた環境の中で学ぶ事の出来る人達を本当に幸せだと思いました。山の中腹に真白に浮出されたYの字がとても因象的でした。

(お二人の姉妹を迎えて)

長らくアメリカへ留学して戻られた豊島姉妹が先日お元気で帰国されました。先方で色々と学んで来られた事、又その豊富な経験を今後どの様に支部の為に役立て、下さるかと皆、楽しみに期待して居ります。又遠く札幌支部から大谷姉妹をお迎えしました。小さい時からモルモン家庭に育くまれたと云う大谷姉妹は、教義に聖句に特に豊かな知識を持っていらっしやいます。早速扶助協会の神学を受持つて頂きましたが、熱心な指導のもとに良いレッスンを持つ事が出来一同感謝して居ります。二月二十一日のMIAでは演説祭があり、又大会に引続き二十八日にはヴァレンティンダンスと大変忙しい月でしたが、それだけに一人一人に取っても有意義な、又楽しい、そして忘れ難い等と得る事の多い月だった事でしよう。

名古屋支部

今年になってから三月十日までに、私達の支部では十人の兄弟が神権の新しい職に按手聖任されました。執事と教席が五人ずつで、みんな神様のよき僕として活発にその責任を果たしておられます。

聖徒の道三月号に載っていましたように、去年の十二月には十七人も兄弟姉妹が誕生しました。今年になってからも十二人の兄弟姉妹が冷い水の中でバプテスマの儀式を受けて誕生しました。(十二月二日にバプテスマで受けた八橋義政兄弟は、今年の始め葉席岳で遭難した愛知大学山岳部のパーティーの一人でした。いつもニコニコしていい兄弟で、教会でも活発に働こうとしていたのにとっても残念なことでした。)

ニュース

一昨年の秋に結婚された土田勝兄弟夫妻に昨年の十二月十二日、赤ちゃんが生まれました。名は善樹(ヨシキ)と、お父さんの土田兄弟に命名されました。

昨年の末、支部の建物の改造、増築が完成し、きれいな建物に生まれ変わりました。新しくレクリエーションホールもできて、現在盛んにMIAなどで利用されています。宣教師達の為には、きれいな部屋と洋式のトイレまでできて喜ばれています。

支部内の組織が変わりました。新しい役員は次の通りです。

日曜学校 会長磯村昌孝兄弟、第一副会長坪田忠義兄弟、第二副会長木沢修兄弟
書記板倉幸子姉妹

子供日曜学校 責任者河村裕子姉妹、第一副責任者中井良子姉妹、第二副責任者伊藤真紗代姉妹、書記伊藤小百合姉妹
Y M I A 会長柳田征史兄弟、副会長松本慎一兄弟、書記小林和子姉妹

扶助協会 第一副部長 竹内千鶴姉妹
書記 古芝みち子姉妹

宣教師移動は次の通り

力の強かったハワード・コリンズ長老は一月七日に東京北支部へ転任。よく会員を手伝って掃除などを下されたアルフレッド・カハナヌイ長老は任期を終えて一月八日に本國のハワイへ帰られました。ウクレレが上手で数々のタレントを見て下さったハワイのセルマ・リンズビー姉妹は東京北支部へ転任されました。皆、名古屋でよく伝道して下さいました。名古屋支部に転任して来られた宣教師は、一月六日に東京中央支部から来られたスティヴン・ラウリ長老と、一月八日に大阪阿部野支部から来られたクレイブラックモア長老、そしてもう一人リンズビー姉妹の代りに来られたのは札幌から一月十八日に来られたキャサリン・スティーヴンス姉妹です。

支部の活動ぶりなどあまり書けなかった事を残念に思います。来月号にはもっと私達の実際の活動ぶりをお知らせしたいと思います。



末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹

35

第三部 オハイオおよびミズーリ時代

第二十章 祝福師の祝福——シオンの陣営

(千八百三十三年——千八百三十四年)

八、不公平な提議。

ジャクソン郡からきた暴徒の委員会が申し

出た提議をよくよく考えた末、予言者ジョセフ・スミスは次のように書いている。すなわち「一見して、暴徒の委員会は聖徒に公平な提議をしているように思えるかも知れない。すなわち彼らは受益者でない仲裁人が定めた価格で聖徒らが所有している土地を買い、さらに百パーセントの追加をする。支払いは三十日以内に行われ、彼らの所有する土地もおなじ条件で提供すると申し出ているが、暴徒らの所有する土地は聖徒らの土地よりもはるかに広く、前に聖徒からほとんどあらゆる物を強奪した後に支払期日を三十日以内にかざるところを見れば、彼らは前に行った不法行為をかくすためにごまかしをしているだけであるということが容易にわかるであろう」と。誠意をもって行われていないこの提議に應ずるとすると、聖徒らは三十日以内に約六十万ドルの金を調達せねばならなかったであろう。これはもともとむりであって暴徒らもよくそれを知っていた。その上暴徒らは、たとえ土地の値段の十倍を提供しても聖徒らはけっして売ろうとしないことをよく承知していた。聖徒らは主の命によってその「ゆずりの地」を保有せよと言われていたからである。

九、聖徒ら反対提案をする。それからしばらくして、聖徒らはミズーリ人に対して反対の提案を行った。聖徒らはジャクソン郡の中で自分たちと平和にくらすことを欲しない人々の土地を、支払期

限を一ケ年とすること以外はさきに出された条件とおなじ条件で全部買おうと申し出た。そして両方から六人づつ委員を出し、合計十二人の委員で土地の値段をきめるはずであった。しかしながら、この提議を偽善のともがらがひじょうに喜んで受け入れなかったのは言うをまたないことである。

十、フィッシング・リヴァーにおける主のことば。 イスラエルの陣営がフィッシング・リヴァーにあったとき、主のみことばがジ

ョセフ・スミスに下つて（教義と聖約第百五章）シオンを贖うためにこれ以上旅をつづける必要なしと述べたもうた。イスラエルの陣営は「彼らが信仰を試みらるるため」ジャクソン郡の辺境までつれてこられたのであった。しかしながら、もし教会員が罪を犯さなかつたならば、主は宣うた「彼ら今にも贖われ居りしならんに。されど見よ、彼らはわが彼らに要求したところにおとなしく従うことを覚らずしてあらゆる惡に満ち、彼らの中の貧しくして苦しめる者たちに聖徒たるにふさわしく物資をわかつた。日の栄の王国の律法を要求する和合一致に従いて一致協力せず。およそ日の栄の王国の律法の諸原則によらずんば、シオンを建つること能わず。これによりて建てずば、シオンをわれに受け入るることかなわざるなり。されば、わが民の律法に従順なることを覚るまでは必らずこれをこらしむるを要す。もし必らず要すれば、彼らの受くることによりてうちこらしめらるるなり。われこの事を言うは、わが民を導くために任命せられたる教会の最初の長老たちにつきてにはあらず。そは彼らことごとくは、この咎めを受くるにあらざればなり。されど、われ外にあるわが教会員につきてこれを言うなり。多くの者ありて言わん。彼らの神何所にありや。見よ、神はなやめる時に彼ら

を救うならん。救わずんば、われらシオンに上り行かずしてわれらの金錢を保つべしと。この故に、わが民罪を犯したる故に、わが長老たちはしばしの間シオンの贖いを猶予するはわがために必要なり」と。

長老たちはシオンを贖うことができる前に、カートランドに於ける主の家の中でいと高きところから力を授けられるエンダウメントを受けて、一層完全に教義を教わり、彼らの義務について経験と一層の知識とを得るはずであった。カートランドに神殿を建てる理由の一つはこれであった。

十一、陣営の解散。 千八百三十四年六月二十三日「イスラエルの陣営」は進軍をつづけてあくる日の二十四日ラッシュクリークのアルジャン・シドニー・ギルバートの邸の近くに着き、そのあくる日の二十五日には二十二日に下つた啓示に従い「陣営」はその地方の人々の感情を静めるために小さな群にわかれてクレー郡に住んでいる兄弟たちの中へ分散して行つた。

十二、予言の成就。 「陣営」がラッシュクリークへ到着するや否や、コレラが会員の中に発生して数日つづいた。ぎせい者はとつぜん病氣にかかり、数分のうちに命を落す兄弟もあるほど病氣の勢いははげしかった。このとき約六十八名の会員が病氣にかかり十四名が死亡したが、その中にはシオンにおける主の倉庫の管理者であり、ジャクソン郡における聖徒の自由と生命とを守るために立つた雄々しい指導者の一人であるアルジャン・シドニー・ギルバートがあつた。

十三、ミズーリにおける高等評議員会の組織。 エンダウメントに関する啓示（教義と聖約第百五章）が下つたあくる日に大祭司の

協議会が開かれ、主の家の中でエンダウメントを受ける多くの人々が召された。そして千八百三十四年七月三日、大祭司は集ってカートランドにおいて与えられた啓示に示された模範に従い、ミズーリにおける教会の高第評議員会を組織した。それから六日たつて予言者は多数の兄弟をともしないカートランドへの帰途についた。

十四、陣営は何を成就したか。

「シオンの陣営」が組織された目的と、それが旅行をした目的とは、教会の会員たちがよく知っていたところであるが、それはこのたび達成されなかった。それにもかかわらず、たしかに教会の会員たちは主が彼らに期待したもうたことをすべて為しとげた。その通り主はフィッシング・リヴァーの啓示の中で仰せになった。彼らの信仰はためされた。多くの経験をつんだ結果、多くの男たちが将来教会の責任ある地位につくために選ばれることとなり、主の御業は大いにはかどった。しかし、主はこれに加うるに、この経験を通して将来きたるべき「西部への大出国」に当って末日聖徒の全員を移動させる責任を負う準備を多くの男たちにさせたもうていた。主のみこころは必ず果されるから万事は主にとって好都合に展開して行くのである。

第二十一章 十二使徒と「七十人」を選ぶ――

カートランド神殿の献堂

(千八百三十四年――千八百三十六年)

一、予言者に対する非難。

前に述べたように、ミズーリへ向う途上「シオンの陣営」中にはいくらか不和あつたが、その旅行中に主として人にさからつた者の一人はシルヴェスター・スミ

スであつて、彼はカートランドへもどつてから予言者ジョセフ・スミスに対する自分の不平をくり返してならべた。その結果、ニユーエル・ケイ・ホイットニー監督や大祭司たちの前に問題がもち出されて裁判になったが、充分に調査の結果、予言者の正しいことが証明されたのでシルヴェスター・スミスは大いに説得を受けた。自分の行いが悪かつたことを告白しその罪を悔い改めた。

二、自分の一の律法。

この時にいたるまで聖徒らは教会を支えるために自分たちの意に依じてその財産を教会に寄附していた。シオンとカートランドにおいてはすでに全財産奉獻の律法が与えられていたが、このときはまだ一般に行われるには至っていなかった。しかし聖徒たちはこのたびその家庭から追いはられたので、やむを得ずこの世のならわしに従つて各自の生計を営まねばならぬようになった。千八百三十四年の秋、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリとは、はるか昔にヨセフが誓約した如く、主が彼らに与えたもうすべてのものの十分の一を負し人々に与えるために納めることを主と誓約して教会員に模範を示した。これは「自分の一の律法」が教会員に与えられた四年ほど前のことであつた(教義と聖約第百十九章参照)。

三、オリヴァ・カウドリ大管長補佐に任せられる。

千八百三十四年十二月五日、オリヴァ・カウドリは主の命によつてジョセフ・スミスから大神権者の大管長補佐に按手聖任され、「この神権時代」に教えと導きとを施すためジョセフ・スミスと共に大管長会の「鍵」を保有することとなった。これは彼が千八百二十九年にバプテスマのヨハネおよびそのほかの聖い使者の手から受けた按手聖任と一致することであつた。

四、しばしの平和。

ミズーリの聖徒たちはもとの所有地へ帰ることをゆるされなかったけれども、聖徒に敵対する精神がしばしの間しずまりかけたので、長老たちは二人づつ組んで外へ出ることを始め、その地方のいたるところに福音を宣べ伝えて毎日多くの人を教会に加入させた。千八百三十四年は、聖徒たちが主の家を建てるため熱心に働らき、またその冬のうちに開く予定の長老たちの塾の準備をしているうちに暮れて行つた。千八百三十五年の一月、長老たちの塾が始まった。主の与えたもうた啓示に一致して神学に関する講義が述べられ、聖典やそのほかの題目に関する研究が教会員のために考慮された。

五、十二使徒が選ばれる。

千八百三十五年二月の十四日、ブリガム・ヤングとその兄弟ジョセフ・ヤングの二人がジョセフ・スミス大管長の家を訪れ彼のために歌を唱つた。二人が予言者の家を訪問していたこのとき、予言者は「シオンの陣営」に属していた者を含み呼びあつめたい、彼らに与える祝福があるからであると言つた。この集りで予言者は二人の兄弟たちと彼らの忘れがたい旅行中の場面を話しあつて次のように言つた。

「兄弟たちよ、わが陣営の中でコレラのために死んだ人々を私は見たことがある。而して、もし私が彼らのような立派な邸がもらえらるならそれ以上何も欲しない。主は知りたもう」と。彼はこう言つて涙をながして泣きしばらくは物も言えなかつた。それから、主はブリガム・ヤングを十二人のとくべつな証し人の一人として召し、またジョセフ・ヤングを七十人会々長として召したもうたと言つた。

二月十四日集會が開かれて、この日呼び集めることのできた「シオンの陣営」の全員は、主がかつて彼らに約束したもうた祝福を受

けるために集つた。この時ジョセフ・スミス大管長は次のように言つた。すなわちこの集りの目的は、出て行つてこれをかぎりに葡萄園の刈り込みをするという、福音を教え導きを施す働らきの中の大切な地位を受ける人々を選ぶことであると。大管長ジョセフ・スミスは教会を組織するにさきだつて与えられた啓示（教義と聖約第十八章）を成就するため、十二使徒を召す準備をせよと主に命ぜられていた。これらの十二人は「シオンの陣営」に加わつて脈をした人々の中から選ばれるはずであつた。またその十二人を選んで按手聖任をするのはモルモン經の三人の特別な見証者の役目であつた。いつものように開会の式次第が行なわれ適切な指図があつてから一時間休憩をした。のちほど、任命をするために會が開かれると、三人の見証者は大管長會の按手を受けて祝福を与えられた。それから三人は其になつて祈り、十二使徒を選ぶことにとりかかつた。この十二人が選ばれた順序にしたがつてその名をしるすと次の通りである。

- 一、ライマン・イー・ジョンソン
- 二、ブリガム・ヤング
- 三、ヒーバー・シー・キンボール
- 四、オルソン・ハイド
- 五、デビッド・ダブルユ・パッテン
- 六、ルーク・エス・ジョンソン
- 七、ウイリヤム・イー・マクレリン
- 八、ジョン・エフ・ポイントン
- 九、オルソン・ブラット
- 十、ウイリヤム・スミス

十一、トマス・ビー・マーシュ

十二、パーレー・ビー・プラット

三人の見証者はさらに進んでこれらの兄弟を按手聖任はじめ、この集会で最初の三人が聖任された。あくる日、集りに欠席したパーレー・ビー・プラットと宣教師として伝道に出ていたトマス・ビー・マーシュとオルソン・プラット以外の全員が聖任された。そしてパーレー・ビー・プラットは二月二十一日に、トマス・ビー・マーシュは四月二十五日に、オルソン・プラットは同二十六日に聖任された。

大管長補佐であるオリヴァ・カウドリが以上十二人の兄弟に一言勧告を行い、大管長ジョセフ・スミスがいろいろな大切なことを教えた。このようにして神権者と教会組織の発達のためにもう一つの重要な段階が完成を見たのである。

六、「七十人」。千八百三十五年二月二十八日、もう一つの集会が開かれ「シオンの陣營」に入ってミズーリへ行った兄弟たちの中から選んで最初の「七十人定員会」が組織された。ハーゼン・アルドリッチ、ジョセフ・ヤング、リーヴァイ・ダブルユ・ハンコック、レオナルド・リッチ、ゼベデー・コルトリン、ライマン・シャーマンおよびシルヴェスター・スミス等の七人がこの「七十人定員会」を管理する役員に選ばれた。この七人の兄弟と定員会をつくるように命ぜられた人々は、大管長会によって按手聖任された。これで福音の伝道と末日の働らきの完全な発達にむかって今一段の進歩が見られたのである。以上の段階は順を追うて行なわれ、これと同様に神の御国の教義も完全な組織が地上に確立するまで「ここに少しくかしこに少しく」現わされたのであった。

七、神殿を建てた人々の受けた祝福。三月の七日に、そのとき

完成に近づいていたカートランドの神殿を建てに当って労働その他の方法で助力をした人々を祝福する目的でもう一つの大会が開かれた。この大会は翌八日中もつづいて行なわれ、約束の「エンダウメント」を受ける準備として必要なこの働らきをした人々の中、この大会に出た人はみなとくべつな祝福を受けた。

八、神権に関する偉大な啓示。千八百三十五年三月十二日に、

「十二使徒」たちは評議の会に集り、大管長会から任命を受け、東部諸州を通して伝道を行い、方々の支部を訪れて教会の事務をととのえることとなった。三月の二十八日、彼らはまさに出発しようとするに当り、主の啓示によって祝福を与えられたいと予言者に求めた。彼らは「われらの来るべき時季における義務につき、主の聖見者を通して主がそのみこころを啓示したもうよう、否われらのこころを広げ、逆境にありてわれらを慰さめ、暗黒の力の真中にありてわれらの希望を輝やかす偉大なる啓示をたもうよう、一同一致して天の父なる神に祈り求めた」と言った。彼らは失望しなかった。それは主が神権に関して偉大な啓示をたまわったからである（教義と聖約第百七章参照）。その啓示の中には、神権の中にあるいろいろの職と神権に属するいろいろの権能とが完全に定義してある。そして、教会には二つの神権がある「すなわちメルケゼデク神権とレビ神権を含めるアロン神権なり。何故に前者をメルケゼデク神権と称するかと問わば、メルケゼデクはまことに偉いなる大祭司なりし故なり。メルケゼデクの前の時代にありては、この神権は神の御子の聖なる神権と称えられたり。されど至高者の御名を敬い尊ぶあまり、しばしば御名をくり返し唱うることをおそれて、古えの教会員

はこれをメルケゼデク神権と称えたり。教会におけるあらゆる、その他の権能、または職務はみなこの神権に從属す。

「十二使徒」の爲すべきいろいろの義務が述べであるこの啓示が与えられるとすぐに「使徒」たちはさきに任命されていた通り、最初の伝道旅行に出發して行った。

九、アブラハムの書。 千八百三十五年七月三日、ミカエル・

エッチ・チャンドラーなる人がカイトランドへ来て、四体のミイラとエジプト文字の一ぱい書いてあるパピルス（紙葦紙）の巻物とを公開した。このチャンドラー氏はさきに、予言者ジョセフ・スミスは君のためにその文字を譚訳することのできる人であるからたずねるようにと言われて来たのであった。予言者はチャンドラー氏のたのみに応じてその文字から二・三の譚訳をしてやったがその譚訳はさきにこの文字をしらべたことのある学者の解読したところと一致したとチャンドラー氏が言った。チャンドラー氏はこの旨を証明する証明書を一通予言者にわたした。この会見が行われてから間もなく、カイトランドに居た聖徒の幾人かがこのミイラとパピルスの巻物とを買いとつたので、予言者はオリヴァ・カウドリとウィリヤム・ダブルユ・フェルプスとを書き役にしてパピルスに書いてある記録の譚訳を始めた。

彼らにとつて大きな喜びであつたのは、この巻物の一つにアブラハムの書いたもの、すなわちアブラハムがエジプトに居たとき主なる神から授かっていたいろいろな教えが入つていたことであつた。そのほかの巻物にはヤコブの息子であるヨセフの書いたものがのつていた。その夏中、予言者は現在「高価なる真珠」の一部分である教会の標準聖典の一つになつて「アブラハムの書」と言われているその記録の完全な譚訳をする準備をして暮した。

伝道本部だより

阿倍野	橋本英子	高橋隆
木下正子	松本	吉岡美智子
大谷節子	赤羽数江	浅香道郎
吉川博子	上条キヌヨ	三口瑛子
福岡	小関康子	東京中央
高田勝章	城取定幸	福田隆
樋口由紀子	名古屋	星野良子
角田一之	広田武敬	河村順子
広島	小谷博昭	小林春枝
狭間昌雄	増田宏	三縄美枝子
村井正子	水谷かつ信	清水節子
中田瑞枝	小木曾昇	戸田八男
佐川那智子	太田信夫	東京東
柳川一美	新潟	紺野淳子
甲府	跡部正男	木口重雄
赤沢うさ子	鳴田和子	東京北
雨宮節子	小樽	安岡那夫
駒沢文義	坂井操	東京西
小山和子	佐々木真子	相原伸行
杉山孝	植木美紀子	土居邦明
鈴木美枝子	仙台	福土恵美子
海野香代子	遠藤修一	武藤愛子
渡辺政幸	行場伸江	霜田ノリ子
京都	中村裕子	山本哲
古田政幸	佐々木裕子	那覇
		宮城真佐子

「砂漠をバラの花の

ように栄えさせる」

キリストがお生れになる七百年まえに、予言者イザヤは未来をじつとみつめていたとき「主によってあがなわれる民」が荒野にいたのを見、かれらが「砂漠をバラの花のように栄えさせる」ことを予言しました（イザヤ書三十五〇一参照）。末日聖徒たちは、開拓者らがソルトレークの盆地へ入ってきて、西部の山間地方にとうとう立派な植民地をきづいたことを指して、この予言が事実となっていたことを誇っています。開拓者らは立派な建物をたてました。ソルトレーク神殿や神殿の境内にあるタバナクルなどは開拓者らがたてた建物の質と性格の立派なことを示すよい例です。開拓者のたてた学校、教会堂、住居、納屋などは、外見こそ大したものではないけれどもみながっちりした建物でした。どの住居にも何か立木や灌木や花で庭園ができていました。庭園や畑のまわりには垣根があつて家畜がうろつくのをふせいでいました。また収穫物の世話は行きとどいており、彼らの土地は熟練した耕作が施してある様子をしていました。またつましい開拓者らの持ちものは何でも手入れが行きとどいて

いました。

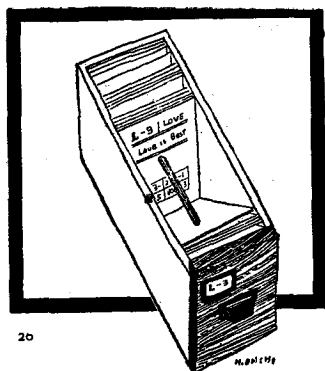
今日私たちの住居や農場もまた開拓者当時のような良心的な注意がはらわれていなくてはなりません。「砂漠がバラの花のように栄える」という予言が完全に実現したと考えるのは早すぎます。まだそれは進行中なのであります。世界中の末日聖徒が「バラの花のように栄え」たとき始めてこの予言が完成するのであります。主なる神さまはシオンに持たせたいとお思ひになるいくつかの性質を予言者ジョセフ・スミスにお話しになりましたが、その中の一つは美でありました。

「すなわちシオンはその美と聖を増し、その境域は拡がりシオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからず」（教義と聖約）八十二〇十四参照。

どこに住んでいようと私たちはシオンの一部であると考へて、自分の住居とまわりとをいつもきちんとしておくという開拓者の伝統をなくさないようにできるだけ努力しなくてはなりません。

ある地域では、とりはらいを必要とするようなみぐるしい建物があります。またひじょうに修繕を必要としているような住居やそのほかの建物があります。これをほっておけばすみやかに悪くなるばかりであります。今

日、もとのようにするに要する費用は僅かでありますが、修理がおくれると費用は急速に倍加します。私たちはいかに住んでいても都会にすんでいても、私たちの屋敷の外観をよくすることに誇りをもたなくてはなりません。私たちの中には金ツチやノコギリやペンキバケをもつと度々使つたり、芝生をもつとよく手入れしたり、庭をもう少しの灌木や花でかざつたり、もっと庭の手入れをよくしたりする必要がある人があります。農家の中には垣根の修理をしたり、納屋の整理をしたり、道具を整然と格納したり、厩やこわれた機械をかたつつけたり、畑をきちんとかたつつけ必要のある人があります。時々、私たちはいろいろな物がほんとに見ぐるしいと感じていないことがあります。しなくてはならないことをはつきり頭の中にくぐくために、私たちは自分の家とそのまわりと概観とを、自分が感心している隣人の一人のものと同くらべてみるがよろしい。偉大な創造主について、ソロモンは「神のなされることは皆その時にかなって美しい」（伝道の書三〇十一参照）と言いました。私たちは努力して自分の住居を見た眼に美しくころよいものにしようではありませんか。



系図の道しるべ

春の夜

私達が先祖を求める時

豊かなみ恵が、はた、完き喜びが

頭上に満ち溢る

苦も悩みも、はた悲しみも

すべては流れて平安を得る

あゝ、備えられたる大なるみめぐみよ

その喜びは男女が一对となる如

思おう、救われし死者の喜びを

我等がバプテスマを受けし時を――

深き深き広き広き はた聖なるいと高き

知識の鍵の王国を――

共に行こう兄弟姉妹達よ

一人もかけることなくして――

この任務行わずして――

我等何の仕事ありや

我等何故に選ばれしぞ

春の静かな夕べに

集いて学ぼうシートの記入

作業の一時は等し

千金のいや一生の汗に等しき日が

来る来る必ず来る時がある

あなたの心はそれを知っている

今年の春の夕べに

集いて学ぼう出発しよう

五月十二日（日）天に母あり

五月の第二日曜日は母への感謝の日ですが、私達モルモンは母親に対して、日ごろの苦勞をなぐさめ、その恩に感謝すると同時に天にまします霊の母へ感謝と讃美をささげましょう。母への感謝、私の母、霊の母、父母を讃美して、適當な題を二・三選んで話してもらいましょう。母に関する讃美歌、例えば一四〇番なども歌ったらよいと思います。系図探求にはお金がある程度必要ですが、いぎ探求しようと思う時にはあんがいノー・マネーの時間が多いようです。今月は二・三十分間の時間を取って貯金箱を作りましょう。支部予算から厚い画用紙を購入してもらいましょう。

月の正しい書き方

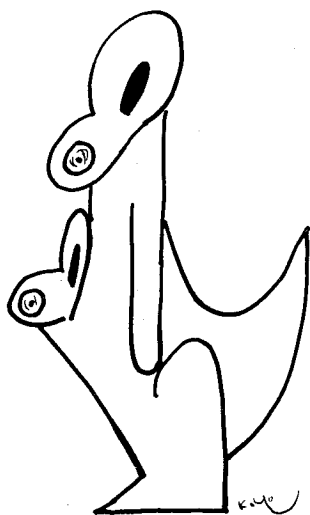
1月	2月	3月	4月	5月	6月
Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	June
7月	8月	9月	10月	11月	12月
July	Aug.	Sept.	Oct.	Nov.	Dec.

西 歷 年 号 比 較 表

1855	安政 2	84	17	13	2	42	17
56	3	1855	明治18	14	3	43	18
57	4	86	19	1915	大正 4	44	19
58	5	87	20	16	5	1945	昭和20
59	6	88	21	17	6	46	21
1860	万延 1	89	22	18	7	47	22
61	文久 1	1890	明治23	19	8	48	23
62	2	91	24	1920	大正 9	49	24
63	3	92	25	21	10	1950	昭和25
64	元治 1	93	26	22	11	51	26
1865	慶応 1	94	27	23	12	52	27
66	2	1895	明治28	24	13	53	28
67	3	96	29	1925	大正14	54	29
68	明治 1	97	30	26	昭和 1	1955	昭和30
69	2	98	31	27	2	56	31
1870	3	99	32	28	3	57	32
71	4	1900	明治33	29	4	58	33
72	5	01	34	1930	昭和 5	59	34
73	6	02	35	31	6		
74	7	03	36	32	7		
1875	明治 8	04	37	33	8		
76	9	1905	明治38	34	9		
77	10	06	39	1935	昭和10		
78	11	07	40	36	11		
79	12	08	41	37	12		
1880	13	09	42	38	13		
81	14	1910	明治43	39	14		
82	15	11	44	1940	昭和15		
83	16	12	大正 1	41	16		

子供の日曜 学校ガイド

5 月 用



母の日特別プログラム（五月十二日）

前奏曲

開会の歌

#22 笑顔

祈り

中級より

日曜学校第二福会長の挨拶

1. 出席して下さった母親達への感謝

五分

2. いろんなことを、ここで勉強しているか

3. 今日の一時を楽しく過ごされるように

合唱

#39 母の日

お話テーマ 僕の私のお母さん

1. 三年生、一年生、各々一名
2. 出席者の母親から一名

詩の朗読（美しい音楽を静かに流して、一つ一つの詩に心をこめてお母さんありがとうといましよう）

手紙・作文の朗読

（たとえ短かくとも発表してもらいましよう）

お母さんにカーネーションをあげましょう

（折紙で作ります）

教会で勉強したことを発表する。

（上級の生徒が望ましい）

生徒全員、前に並び #24（お手伝）を合唱

閉会の歌 #1 神さま、ありがとう。

後奏曲

注意 1. 前もって準備が必要。

2. お母さん達へ招待状を配る。

3. お母さんのいない子に注意すること。

（先生の一人が側についてあげる等）

今月ここに載せました二つの詩は南支部の中級のお友達の詩です。とっても素直に描写していると思いませんか。皆さんの支部でもきっと素晴らしい歌が生れてることでしょう。

青葉の美しい頃となりました。暖かい日さしの下で思いっきり飛びまわってみたい気持ちになりませんか？ 休日も多い月ですし、子供達と一緒にピクニックにでも行くプランをたててみては如何でしょうか？

『お母さんは、わたしたちを愛してください』

五月十二日は母の日、お母さん、何時もいつも、わたしたちのために忙がしく働いてくださってありがとう。

そこで少々変ったプログラムを計画しました。

お母さんによせて

私のお母さんは

とてもやさしいです

でも ときどき

お姉さんとけんかをするとおこるけど

ふつうはやさしいから

とても大好きです

本当にいいお母さんを下さってありがとうございます

中村友子作

うちのお母さん

やさしいお母さん

お洗たくもおそうじもして下さる

私達は感謝しよう

高橋和枝作



ポケット

ポケットさん

あなたはいつも私と一緒に

だまって、そーと

私を助けてくれるポケットさん

ハンカチ、チリ紙

持ってくれるポケットさん

ポケットさん

あなたの兄弟何人いるの？

みんなとっても親切ネ

私たちの夢をしずかに

しまっておいてくれるポケットさん

お母さんが縫ってくれる

私の洋服

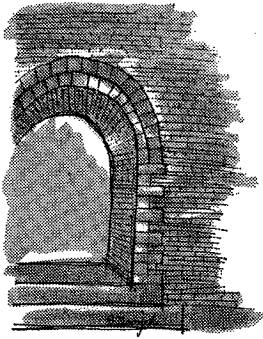
あなたがやさしくついてます

ポケットさん、私はあなたが大好きよ

こんなに素晴らしいポケットを

作ってくれた、お母さん

ほんとに、ほんとに、ありがとうございます



4 月 用

母の日プログラム

復活祭が終わったら、もう母の日です。五月の第二日曜日ですので今年は五月十二日になります。神の愛にもっとも近いと言はれる母の愛情を讃えるため次のプログラムをお勧めいたします。

テーマ 母の愛にこたえて我々は更に積極的に、元気に生活しよう。

敬虔な前奏

挨拶

支部長

開会の歌

三九 家庭の中に

開会の祈り

プログラムの紹介 日曜学校会長

次のような事柄が述べられれば十分です。今日の日曜日は我々すべてが母に感謝するため特別に設けられた日である。父なる神は我々にいつの時代でも父母を敬まはなければならないことを命じている。この五月の第二日曜日が母の日として特に母に感謝するための記念日になったのは一八四二年ペンシルバニアのアン・ジャービス婦人の尽力によるものである。今朝これから行はれる短かいプログラムは母の日を記念して三人の兄弟姉妹

より「いかに母の愛にこたえるべきか」について話がきけることでしよう。

三分の話 A コースの少年

「母の愛にこたえるべく私がやりたい事」母が望んでいるよう人になるために具体的にやっていることなど、又はやろうとしていること。

斉唱あるいは合唱 四二 母よわれ美しき

三分の話 B コースの少女

「いかに母の愛にこたえたらよいのか」母が行なった印象的な事柄を話しながら私も大きくなったら、そのような母になりたいことを強調する。

二分の話 E コースの父親

「母の愛にこたえるべく我々家族の者はいかなることをなすべきか」

この話はヨハネ伝十九・二五―二七の聖句を中心にする。

分級――復級

開会の歌 一六八 さかえに進まん

開会の祈り

(二三八頁に続く)

練習の讚美歌 四十九番

ある会員の婚礼の時、姉妹達が美しい歌を歌ってお祝いしました。四十九番でした。さあ皆様も一緒に練習してこの美しい歌を神に捧げましょう。

メロディはやさしいですが、六拍子で指揮をとると、ゆっくりすぎますので、二拍子で指揮して下さい。四段まで歌ったら折返し的一段二段を歌います。

喜びの感じで大きな声で歌って下さい。コーラス団のある支部では四部合唱にしたとしてもすてきです。

六月 二二六番

子供日曜学校

テレビやラジオの影響で最近の子供達はコマーションソングやスーダラ節を得意そうな顔をして歌っていますね。日曜学校に子供達も家に居る時、又、遊ぶ時、スイスイ歌っているのかもしれませんが。そんな子供達の口から自然を讚美する歌が出来る様に指導してあげたら良いと思います。

教え方に付いての提案ですが。この歌詞にあった絵を黒板あるいは紙に書いて、その絵に歌詞を書いて教えたらいかがですか。

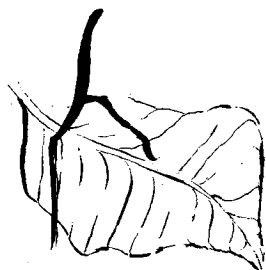
子供たちは覚えるのが早いですが一ヶ月同じ様に教えているとあきてしまうかもしれませんから、先生方がいろいろな工夫なさって楽しく教える様にしてください。

四十五番は中位の速さで歌います。一段と二段のスタッカートをよくいかして楽しさを表わして下さい。

三十五番

指揮者の方に、

今月は鏡の前で二曲だけ歌いながら指揮をしてみたらいかがでしょう。手をクネクネしない様に又、おしゃか様の手の様に人さし指だけピンと立てて天井天下を指さしていませんか、御自分の姿勢をよく見て研究してみましよう。本を顔に付けすぎない様に。



練習の讚美歌



● パルマイラ
12 ● フェイサット
5 ●

1. ジョセフに
会ったー1820年初春

2. モロナイ天使ジョセフに金瓶を
渡すー1827.9.22

-----4----- ニューヨーク
3 ----- イネチカット
セデグ神権、ジョセフと
アに与えられるー1829.5-6.



ペンシルバニア

3. アロン神権、ジョセフとオリヴァに
与えられるー1829.5.15



権の鍵は回復された



6. 特別の神権の鍵がジョセフとオリヴァに
神殿で与えられる - 1836.4.3

1. 天父と御
現われ

モーセ

エライアス

エライジャ



カートランド

● オハイオ

4. メルケ
オリウ

5. 教会、合法的にジョセフを含めて6人に
よって組織される - 1830.4.6

キリストの福音と神

メルケゼデク神権

第一長老定員会



東地方部、北海道地方からなる第一長老定員会も日々発展しつつあります。現在第一長老定員会には約百名の長老が属しておりますが、その内九十パーセント以上が活潑に働いていることは真に力強く思います。長老定員会は各支部にグループが組織されましてグループリーダーが決ったときに完全なものとなります。この度、北海道地方部の二月大会に於いてグループが全部組織されました。北海道には現在二十八名の長老がいますので四十九名となりまして新しく定員会が独立するのも間もないと思います。この第一長老定員会

がますます栄え、長老とその家族の上に豊かな祝福がありますよう祈ります。
(中村)

(北海道地方部)

支 部	長老数	グループ リーダー
札幌	12	北山
旭川	6	盛永
小樽	4	若松
室蘭	6	川上

(日曜学校レッスンガイド続き)

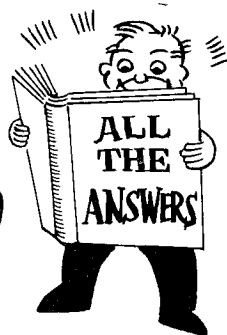
資料について (二六頁)

寒いつめたい冬が過ぎて暖かい希望に満ちた春、又さわやかな青葉の季節初夏が間近にせまっております。このような素晴らしい時期に教会の大切な事が起っております。

封筒について

伝道部日曜学校会長あての封筒を印刷して各支部に送りましたが、今後日曜学校の記録も含めてどんなことでも日曜学校に係する問題の質問にはこの封筒を使ってください。ただし表に「記録在中」「質問在中」とはつきり朱書きのこと。

MIA Leader



良く教え、指導する為の六つの基本的標準

第四課（先月号からの続き）

5 教室外での準備

生徒達には次回の集会で発表してもらう何かの問題が与えられる。一般的に、その様な問題は簡単であるが、非常に特色のあるものであり、はっきりした価値ある内容が含まれていなければならない。教師はクラスの調和を保ち、健全な目的が達せられているかを見る責任がある。それ故に、生徒達の報告が価値あるものになるように計画して上げるべきである。

ある問題はグループ単位で与えられる。討論会やパネル・ディスカッション（相対する意見を持った四～五人が第三者の前で互いに討議し合う、一種の公開討論会）また、活動の立案は教室外でも充分に実行される筈である。

6 質問する手法

古代ギリシャのソクラテスの時代から今日に至る迄、質問は若し、それが上手に為されるなら、思考力や学習力を刺激する上に優れた道具となってきた。イエスはしばしば、別の質問をする事によって、彼に為された質問に答えられていた。例えば、一寸心に興味を

惹くルカの福音書を読んでみよう。イエスは彼の教えの中でどのように質問を為さったであろうか。プラトーの対話にも質問法で教えるソクラテスの手法が説明されている。思索を刺激し、主題を発展させる助けとなる質問法はそう易しくはない。然し乍ら、教師が促進させ得る技法もある。無駄で、何の結末も付けないような質問もあるし、豊かな実りを結ぶ質問もある。良い質問が出来る手助けとなる幾つかの基本的な方法があるなら、今ここで考えてみよう。

普通、質問する際に避けるべき事がら

(1) 「はい」か「いいえ」で答えられるような質問、例えば「あなたは教育は良い事である」と信じますか」のようなもの。この質問には欠点がある。何故なら、思考力を少しも刺激しないし、この問題に価値ある貢献をしてないからである。教師は次の質問でも、もう一度やり直さなくてはならなくなる。

(2) 教師は生徒達にあまり役立たないような答えの出る質問をしてはならない。例えば「聖徒達は神殿を建てる為に。何時頃ジャクソン郡へ戻るでしょうか」。此の種の質問は生徒達を混乱させ、退屈以外の何物をも残さないでしよう。

(3) 初めから答えの解っているような陳腐な質問は飽き飽きする。例えば「我々が食物を摂るのは何故に大切なのか」と云った類。

(4) 此の教会のある一部の教師達の一般の欠点は、彼等自身がその答えを望んでいるような質問をする事である。我々は多くの優れた素質のある教師を知っている。彼は思慮深く、創造力豊かであり、福音に真実な信仰を抱いているが、彼は質問する時、本当にまれな場合であるが、クラスの会員の返答に耳を傾けず、たゞ、彼の持つ（正しい）答えばかりを考えている。生徒達の答えは無視され、軽くあしらわれ、自己の考えを押し付けようとする熱心さのあまり口をふさがれてしまう。この結末は可愛想にもクラスの会員達は自分達の努力が認められないと云う欲求不満にとりつれてしまう。

前述された事と深い関連のある別の欠点は教師がどんな不適当な欠点だらけの答えをも採り上げてしまうことである。良い質問は多くの検討の価値があり、クラスの中で何度も話され、いろいろの利点で論議が展開される。

質問をする際に覚えておく事がら

(1) 思考力を刺激し、責任ある質問をしなさい。

い。例えば「主は何故に安息日を設けられたのか」。此の質問には熟慮が必要であり、一人以上の生徒が参与出来る質問である。或いは別の例を挙げると「末日聖徒は何故、ミズリーから逃れ出たのか」。クラスでは末日の歴史に関する此の質問はクラスの全体に終止符を打つようになるかも知れない。これにはある程度の予備知識と知識と判断が要求されるのである。そして、意義と目的を持って何処かへと導くのである。（来月号に続く）

（裏二訳）

五月十六日 一般活動「家族と共に」

今までのMIAの中に見られなかったことですが、MIAの会員達とその家族が共に集まると言う試みです。勿論、その家族が教会の会員である場合もあるでしょうし、ぜんぜん教会など足をふみ入れたこともない様な方であるかもしれません。でも、家族の全員でなくても、両親、兄弟、姉妹のどれか一人でも協力して下さるとすれば幸いですね。また、この教会を教えるよいチャンスでもあります。また、家族全員が幸いにして此の教会の会員であるとすれば、勿論快く参加していただけることでしょう。免解、一人でもいいですから、必ず自分の家族と共にMIAにや

って来るように宣伝して下さい。早くから支部内にポスターを貼り出して宣伝しないと、家庭にはそれぞれの予定もありますから、いつ、どこで「家族と共に」のMIAが開かれるのか知らせる必要があります。

この日のプログラムの一つに晩餐を共にすると言うことになっておりますが、大きな支部で晩餐を作るのがたいへんでしたら、あらかじめ食券を売って（勿論、MIA予算が充分であれば支部から出していたぐくのもいいことでしょうが——）人数を確認し、いなりずし、サンドウィッチ、幕の内弁当とう等を作っておいてもいいと思います。各支部の状況に合わせて軽食でも、晩餐でもどちらでもよいと思います。家族の方々と親しい雰囲気の中で時を過したいと思ひます。

提案されるプログラムは次の通りですが、各々の支部の持っている条件に合わせて適当に変更して差しつかえありません。

五月十六日「家族と共に」

開会の歌「家庭の中に愛あらば」

開会の祈り エンサイン・ローレル・クラ

スの中より選ぶ。

テーマ朗読

支部長（あるいは支部長会の誰れか）挨拶

コーラス MIA会員

食事(食事の間にアトラクションを何かやっても良い)

ゲーム 皆いっしょにやれるゲームを幾つかやりましょう。

家族代表 MIA参加に対する感想

閉会の歌

閉会の祈り

Mメン・グリーンナー・クラス
の中より選ぶ。

五月三十日 一般活動「ゴールド・アンド・

グリーン・ボール」

年間行事中、最もMIAの代表とされる集まりがこの「ゴールド・アンド・グリーン・ボール」です。特にダンスのクラスの人々にとって待ちに待った日であることでしよう。

ある支部にあっては、この日を音楽のクラスの人達が心待ちしていることでしよう。彼等は自分達のバンドの腕の見せ所で、はりきりって素晴らしい音楽を演奏して下さることでしよう。MIAの象徴である「金」と「緑」が永遠の若さと知性を表わす様に、この舞踊会も、若さと知性にあふれた会であるはずです。街で開かれている。ダンス・パーティーと、どこか違ったものを持っているはずですし、礼儀と秩序の保たれたこの舞踊会がMIA

Aの会員から誇と好評を得られるはずです。支部内の人々に招待状を送りましょう。すでにお母さまとなられた方々も出席されて、若い頃の良き思い出をしのばれるかもしれせんね。

MIA役員は企画、宣伝、装飾(照明)、音楽等の委員に分かれて責任を持ちましょう。ダンスの内容についてはダンス・クラスリーダーが中心となって、クラスの人々の意見を参考に計画して下さい。この日の総体的な責任はMIA会長会にあります。

多くの新しいお友達をつれて来るのに良い機会です。また、はじめて来た方々とお友達になる良いチャンスでもあります。

MIA書記の皆様へ

書記の仕事は沢山あって大変なことと思います。でも貴方が記録されていることを、天に在しますお父様が良く見ておいでになります。「誠実」を持ってモットーとして下さい。各クラスに補助の書記をお願いして一ヶ月の計が早く出せる様に努力して下さい。一ヶ月の最後のMIAの会が終わったら次の日曜日迄に統計を出して下さい。毎月レポートの提出期日は、翌月の五日迄です。遅れて

も十日迄に伝道部MIA事務局にとどく様に郵送して下さい。なお、十日を以て最終締め切り日としますので、十日以後に提出されたものは、伝道部MIA全国統計の中に含まれません。伝道部MIAレポートは、アメリカMIA中央管理局へ十五日必着となっておりますので、どうぞ各支部の書記の方は締め切り日に間に合う様にお願致します。

なお、謄写版のレポート用紙が配布されましたが、日本語で訳されているのに気付かれたことでしょうか。今後、レポートの国内版は日本語になりましたので、各記載事項を正確に間違いのない様にお願致します。印刷されましたレポート用紙一冊ずつ近いうちに配布されますが、レポートの記入方法も記しておきましたから、もう一度よく読んで、自分の記入法に間違いがないかどうか確かめて下さい。また、送付場所ですが麻布の伝道本部に送っている支部がありますが、本部の書記からMIA事務局に転送される為、日数がかかります。どうぞ直接MIA事務局の方へ送付して下さい。(榮子記)

ペンフレンド

海野香代子(甲府支部)

住所 山梨県甲府市上条新居町二、三
五八
年令 十七才 高校三年
趣味 切手収集 映画(洋画)
音楽鑑賞

佐々木郁子(小樽支部)

住所 北海道小樽市永井町三ノ六
年令 二十一才
職業 被服加工
趣味 スポーツ一般(見る方) 編物、
エスプラント語
希望 私は昨年八月五日バプテスマを
受けた会員です。エスプラント
語を少しやっておりますので、
エスプラント語をやっていらっ
しゃる方なら誰れでもけっこう
です(またやってない方でも)

私達の M I A

皆様今日は、東京東支部に引続き、都の北
部から全国の皆様に御挨拶と、当支部の様子
をお知らせいたします。

先ず当支部 M I A のモットーは、多くの人
々の参加です。現在 M I A に集う人々は約
七十名前後です。現在の北支部には教会堂が
ないため目の徳川生物館の講堂を借りて行
っております。(もうすぐ素晴らしい教会堂
が建堂されつつありますが) 講堂ですが場所
は狭く使用出来るのは縦二十米、横十米位の
ホールと、舞台と舞台裏です。又ホールには
椅子や机が沢山置いてあり隅々まで使えない
様な有様です。けれども集う人々は毎木曜日
楽しく M I A の夜を過しております。
では現在の当支部 M I A の会長とレス
ンと活動の教師をお知らせ致します。

会長

Y M M I A 会長 神崎武二郎兄弟

副会長 織本 信之兄弟

Y W M I A 会長 雨宮 昭子姉妹

副会長 一条 清子姉妹

書記 西尾 久江姉妹

教師

M メン グリナー 森村 久男兄弟

エン サイン ローレル 一条 清子姉妹

始めてのクラス 支部長会並に宣教師

活動

フオー クダンス民謡 神崎武二郎兄弟

絵 画 矢島 幸子姉妹
お話のクラス 宋永 英子姉妹
音 楽 中野 正之兄弟
山岸 清子姉妹
演 劇 高橋 実兄弟
一条 清子姉妹

北支部 M I A の運営は以上の人々が責任を
持つて行っておりますが、この外スポーツ委
員とか応援委員とかフェロシップからの歓迎
委員がおります。前にも述べました様に私達
の支部のモットーは、多くの人々の参加です
ので、タレントの夕べ、音楽祭、演劇
祭、等の一般活動の時の参加者は非常に多く
いつも時間が足りなくて会長会を悩ませま
す。又地方部大会のある時等はいつも集まっ
ている M I A の会員全員が舞台に出て大きな
声で合唱して外の支部を驚かせた事もありま
す。又夏のキャンプでも五十〜六十人出席し
て日頃の友情を特に深めます。いよいよ M I
A の全国大会が予告されましたね。私達の支
部では目の前にせまった教会堂の落成式典と
共に M I A テーマにもとずいて、よりよい M
I A の発展と繁栄に胸をふくらませておりま
す。

では皆様 M I A の全国大会に於てお目にか
かりましょう。 さようなら



ペギー・ヒュイシ・アンダーセン姉妹

或る忠実な女の方が子供の日曜学校の先生のかわりをして下さいとたのまれました。本職の先生は病気で入院していましたので、このかわりの先生は、その週に子供の日曜学校のクラスで教える準備をし始めました。ところが、この先生はクラスで教える日のくる一日前にひどいかぜをひき、あくる朝は声がつぶれてしまいました。しかし、この方は約束をかならず守る人でしたから、自分の指導者に失望させたくないと思つて、ささやき声で授業をして全力を尽くそうと決めました。そして、授業を始めるときに「みなさん、私の声は今日とても小さいから、私を助けて下さいね。私はささやくことがやつとですからみなさんが聞こえるように静かにして下さいませんか」と言いました。このようにしてクラス全部を指導しましたがとてもよい授業ができました。それから数ヶ月後に、この女の方はまた同じクラスの先生のかわりを

して下さいとたのまれました。そして授業を終ったときに、まだ閉会までに数分ありますから何でも聞きたいことがあったら言つて下さいと言いました。すると数人の手が一ぺんにあがつて、最初の小さな女の子が言いました「ねえ先生、この前のようにもう一ぺん小さな声でお話をしてちょうだい」と。生徒たちはこの先生についてささやき声だけを覚えていたのです。人々があなたについて覚えているのは何でしょうか。人はいつ自分がほかの人から見られてるか知りません。その上に、人は、ほかの人が自分のことを何で覚えてるか知りません。それは覚えてもらううちのあることでしょうか、それとも何か好ましくないことでしょうか。

キリストはあるときお弟子たちにむかい、模範についていくらか仰せになりました「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイによる福音書五〇十六)。

この聖句は、昔の聖徒たちにとって適切なことばであった通りに、今日ただいまキリストの教会の会員たちにも適切なことばであります。またキリストはお弟子たちに「あなたがたは地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである。あなたがたは、世の光である。山の上にある町はかくれることができない。また、あかりをつけて、それをますの下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照らさせるのである」(マタイによる福音書五〇三―一五)とお言いになりました。

キリストは、お弟子たちが各々のもっているすばらしい召しを正しく利用しないなら、各自の高い地位もほとんど役に立たないことを教えて、立派な業績をのこすようにはげましをお与えになりました。キリストはまたお弟子や聖徒たちに、あなたがたは地の塩である、世の光であると言ひ、つづいて、この光をかくすなど言つて、お弟子や聖徒たちに、あなたがたはこの「光と真理」をかがやくお手助けをしてこれが人類のために世界中に満ちるようになさいと教えていました。

私たち末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、地の塩である人々の仲間であります。私たちは福音の光をもっております。私たちは、世の人々が見てついでくるように光を世にかがやくことができるに足る重要な人間であると自分自身を考えなくては いけません。予言者ジョセフ・スミスはあるとき、教会の婦人会員たちにむかつて「教会の中によこしまなことのないように気をつける手助けをするのはあなたがたの義務」であると、とくに言いました。また「扶助協会は教会員間の良風を指導し美德を強化して、長老たちが非難譴責をするわずらいをはぶき、しかも長老たちがほかの義務を行なう一層多くの時を持てるように力を惜すべきである」と申しました。

またマッケイ大管長は「模範を示すことによって私たちのねうちを証明する」とお言いになったことがあります。私たちは、この時代に生きている「天にまします父なる神」の娘たちの指導者となるよう、教会の神権指導者たちからたえず勧告を受けております。指導者になるには模範を示すことであります。これが数ある方法のうちで一番よいことを私は知っております。私たちの教会の第二代の

大管長であつたブリガム・ヤング長老は「現在われわれの宣べることのできる、また地球上にこれまで宣べられたことのある最も偉大なまた最も強く人の心にひびく説教は実行である。実行にまさる説教はほかにない」とお言いになったことがあります。私たちは、ほんとうのモルモン教会の教えを毎日実行していますか。もしも私たちがほんとうに真理をほかの人たちに教えたいと思うなら、私たちはまず第一にその真理を自分で実行しなくてはなりません。もしも私たちが、ほかの人たちに親切とけんそんを教えたいならば、私たち自身が親切でけんそんでなくてはなりません。もしも私たちが、ほかの人々に私たちの召しを支持し私たちに忠実にしてもらいたいなら、私たち自身まずほかの人たちを支持しその人たちに忠実でなくてはなりません。もしも私たちが、福音をひろめる（私たちの光をそのようにかがやくことによって）義務があるなら、私たちは自身のよい行いによって、福音が私たちに与えている価値を、まわりの人々の心に強く感じさせなくてはなりません。

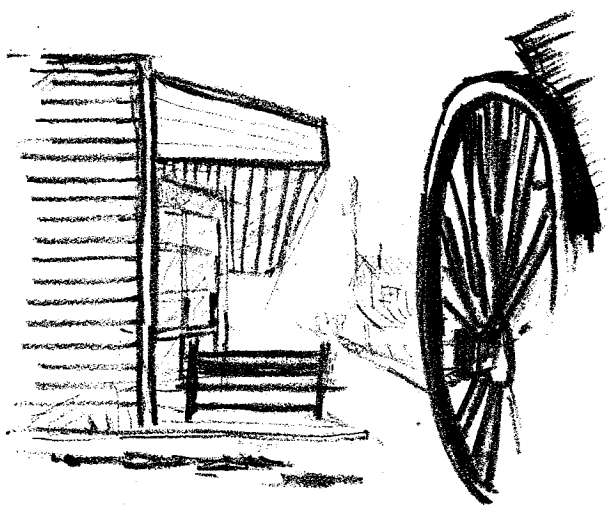
私たちは、もっとよい模範になれる二・三の活動をするように決心しましょう。

(一) 風采は、じみで清潔で小ざっぱりしておきましょう。

(二) 言葉づかいは、清潔で健全で上品で物やわらかで、誠実でいっばい。

(三) 習慣は、「知恵の言葉」を忠実に守り、時間におくれず、他人の時間も自分の時間のように大切にし、仕事をもらったときには、最も親切にいねいに完全に仕上げること。

四人間関係は、他人に深い心やりがあり「自分がしてもらいたいことを他の人にしてやり」、正直で、誠実で、(二五一頁に続く)



母親ルシイ・マック・スミスの語る

ジョセフ・スミスの生涯(六)

第十三章 ジョセフ・スミス(初代)の受けた

最初の示現——次の示現

私たちはタンブリッジの農場を売ってから、ロイヤルトンの町のつい近くのところへ移りましたが、ここに住んだのはわずかに数ヶ月で、ヴァーモント州ウィンゾル群シャロンへまたひっこしました。私の夫はこのシャロンの町で私の父から農場を借りまして、夏の間は耕作をし、冬の間は学校の先生をしました。私の夫はこうにして数年の間たえず働きましたが、そのうちに私たちの家の事情もしだいによくなり、またまったく安楽にくらせるようになりました。

その間に、私たちは一人の男子をもうけ、父の名をとってその子をジョセフと呼びました。この子の生れたのは千八百五年十二月の二十三日でありましたが、この子のことについてはだんだんくわしく申しあげることになります。

私たちはそこからまたタンブリッジへ移りました。ここで私たちはもう一人の男子をもうけその名をサミュエル・ハリスンとつけました。生れたのは千八百八年の三月十三日であります。私たちはタンブリッジに帰ってきてても、おちついていたのは僅かであってまたまたロイヤルトンへ移り、そこで千八百十年三月十三日に下の男子イライムが生まれました。私たちはそれからしばらくロイヤルトンに居ましたが、そのうち千八百十一年三月十三日(三人ともにおなじ月のおなじ日)にまた男子が生れ、その名をウィリアムとつけました。

このころ私の夫のころは、宗教の問題について何とか解決をつ

ければならぬというような興奮した状態になりましたが、それでもとくべつな教派に属したいと申しこむことはなく、私たちの主なる救い主イエス・キリストとその使徒たちによってたてられた昔の組織が正しい教会であると主張していました。

ある晩のこと、私の夫はひじょうに考えこんで、当時存在していた混乱と不一致のなかにあるキリスト教の情勢をつくづく考えながら寝につきました。夫はすぐに眠ってしまいました、目のさめる前に次のような示現を受けました。あくる朝、夫が私に話してきかせたとおりのことばでそれを申しあげます。

「私はそのときからひろびろとしたやせ地の上を旅をしていると思った。旅をしながら目を東西南北にむけてながめたが、四方には枯れてたおれた樹木のほかは何もなかった。動物でも植物でも、生命のかげらさえ見ることはできなかった上に、あたりはまるで死のような沈黙に支配されていて、その野原一帯に生命のあるものを出す音は一つとしてなかった。たえず私のそばをはなれずつき添っていて下さった「みたま」のほかは誰もいないこの陰気な荒野の中に私はただひとり居た。私はこの「みたま」に、私が見たものの意味と、私がこのような気味のわるい場所を旅行しているわけをたずねた。すると「みたま」は次のように答えて下さった『この野原は現在の世界である。現在の世界はまことの宗教すなわち救いの計画につきていま何の生氣もなく何の声もなき有様である。さりながら進み行け。さらば道のかたわらに或る丸太あり、その丸太の上に一つの箱を見出すならん。汝その箱のなかみを食うならば、汝は賢くなり知恵と理解を与えらるるにちがいない』と。私はそのとき、私の案内者のことばに注意深く従い、すこし進んでゆくとあの箱のそこ

ろへやってきた。そこで私はすぐにそれを丸太からとりあげて私の左の手の下におき、ここを集中してそのふたをあけると箱の中にあるものを食べはじめた。するとあらゆる種類の獣、角のある家畜、ほえたける動物などができるだけ物すごい様子をして四方にむらがり立ち、土をひきさき角をふり立てひじょうにおそろしい怒号をしつつ私のまわりをとりまいた。そして、ついに私のすぐ近くまでおそってきたので、私はその箱をとりおとして命からがら逃げるほかはなかった。しかし、奇妙なことにこのようなさわぎの最中に、私はふるふるふるえていながら心の中は幸福な感じでいっぱいであった」。

これからさきというものの、私の夫はすこしも信仰の告白をしない世の中の人々が神の国について何も知らないとおなじように、どの宗教家たちの組織も神の国について何も知っていない、という考えを前より一層固くしたようでありました。

千八百十一年に私たちはヴァーモント州ロイヤルトンからニューハンプシャーのレバノンへ移りました。ここへ着いてからまもなく、私の夫はひじょうにめずらしい別の示現を受けましたのでそれを申しあげます。夫は私に申しました。

「私はそのときひろびろとした荒野を旅行していたと思ったが、その荒野はひじょうなやせ地のように見えた。私がこのように旅をしていると、私はこれからさき行く前に立ちどまって、いましていることをよく考えてみた方がよいという考えがとつせんところに浮んだ。そこで私は自分にたずねた『この荒野を旅行するためにどんな動機が私にあるかしら、またここはどこかしら』と。すると、前のように私につきそっておられた案内のお方が『これは荒れはてた

世界である。しかし進んで行け」とお言いになった。その道はひろく一木一草もないほどの不毛の地であったから、私はなぜその中を旅して行かねばならぬかといふかった。それは私が自分自身に『死にいたる道はひろく門はあけはなれたたり。しかししてこの門に入る者は多かるべし。されど永遠の生命にいたる道は細く門はせまし、しかししてこの門より入る者は僅かなるべし』と言っていたからである。ここからさきにすこしの道のりを行くと、私は細い道へさしかかった。この道へ入ってさらにすこしばかり行くと私は東から西へながれている美しい水の流れを見た。この水の流れには源もなければ川口もなかったが、その岸にそって人間のせたくぐらゐるところに一本の綱が目のとどこかぎりはるかまで張ってあった。そして私のむこうに低いけれどもひじょうに美しい谷間があつて、そこに見たこともないような木が一本立っていた。それはひじょうにみごとな木であつたので私は感歎をしてその木を仰ぎみた。その美しい枝はからかさのように四方へひろがり、栗のイガのような形をした一種の実がついていてその実は雪のように、いや雪よりも白いと言いたいくらいであつた。私が上をむいて、すくなくらぬ興味を抱いてこの実をみつめてみると、この実のイガまたはカラがはじけはじめ、その中の実を四方に降らせたが、それがまた目もくらむほどのかがやく白さであつた。そこで私は近よつてその実を食べはじめたが、その旨さと言つたら、何と言つてよいかわからぬほどの旨さであることを知つた。私はその実を食べているときこころのうちで『私はひとりでこれを食べることはできない。私の妻子も私とおなじくこれを食べることができるよう、私は妻子をつれてこなくてはならない』と言つた。そこで、私は行つて私の家族をつれてきた。

それは妻と七人の子供たちであつたが、私たちはみんなでその実を食べはじめ、このめぐみを下さつたことを感謝して神をほめたえた。私たちは容易に言いあらわすことができないほどのひじょうな幸福をあげわつた。このようにしているうちに、私は私たちのいる谷間の向うがわに一つの広々とした建物が立っているのを見たが、それはほんとうに天までとどくかのようにそびえ立っていた。その建物にはいっぱい入口や窓があつて、そこはまたひじょうにきれいに着かざつた人々でいっぱいであつた。ところで、これらの人々が低い谷間の木の下にいる私たちを認めたとき、彼らは私たちを指さしてあざけり、あらゆるけいべつとあなどりを私たちに示した。しかし私たちは彼らの無礼な態度をまったく無視した。私はやがて、私を案内して下さつた御方の方を向いてこのように美味な木の実に、どんな意味がございますかとおたずねした。するとこの御方は、それは神を愛して神の誠命を守るすべての者の心に注がれる神の純粹な愛であると話して下さつた。そして私に行つてのこりの子供らをつれて来るようにとおっしゃつた。私がみんなここに居りますと申しあげると『いやいや、むこうを見よ。もう二人いるから、それもつれて来なくてはいけない』とおっしゃつた。それで、私が目をあげて見ると、私はやや離れたところに立っている二人の子供を見た。私はすぐにそこへ行つて二人を木のところへつれて来た。すると二人はほかの者たちとおなじように木の実を食べはじめたので、私たち一同はうれしく思つた。私たちはその木の実を食べれば食べるほど、もっと欲しくなるように思われたので、とうとうひざを地につけて木の実をすくいあげ、両手に山もりにして食べたのであつた。しばしこのようにしてごちそうになつてから、私は案内を

して下さった御方に、私の見たあの広々とした建物の意味をおたずねした。するとその御方は『あれはバビロンであるぞ。かならず倒れるにちがいない。あの入口や窓にいる人々はバビロンに住む者たちである。かれらは神の聖徒らがけんそんであるため、神の聖徒らをあざけりけいべつをしているのである』とおっしゃった。私は間もなく目がさめ、うれしさのあまり両手をハタと叩いたのであった。

第十四章

レバノンでソフロニヤ病氣にかかり、 奇蹟的に回復する

前にも申しましたが、私たちはニューハンプシャーのレバノンへ移りました。

(註。二女のカザリンが生れたのは一家がレバノンに住んでいたときのことである。スミス夫人によると誕生日は千八百十二年七月の八日であった)

私たちはここにおちついてから、最近私たちの努力にともなってあらわれてきた成功を喜びと満足のところで考えはじめました。そして、子供たちが成人したときの必要を助ける目的でもっと「この世の物」を手に入れるため、今までよりも倍も勤勉に働らきました。また、まったく自然なことですが、老後をたのしみにして、老後を大いに楽しませてくれるものを得るために努力をするのはもちろんのこと、老後の入用のためのそなえもして居りました。

私の家の子供たちは、学校へ行って勉強をする特権をもつことを大そうさまたげられていましたので、私たちはこの大切な義務をはたすためにあらゆる世話をすることをはじめました。私たちは二男

のハイラムをハノーバーの高等学校へ入れ、あとの子供たちはもう学齢に達してしましたのですぐ近くの小学校へ通わせていました。そのあいだに、私と夫とは将来家族の幸福と利益になるよう私たちの努力を尽しておりました。そして私たちの働らきは大そうめぐまれました。

しかし、このようなめぐまれた状態はながくつづきませんでした。やがて疫病(チフス)がレバノンへ入ってきて荒れ狂いました。家の子供たちもこの病氣にとりつかれ、第一にソフロニヤ、第二にハイラム(彼はハノーバーの学校へ行っているうちにかかって家へ帰ってきました)、次にアルヴィンという工合に、手っとり早く言えは次々とチフスにやられてしまいは私と夫だけを除いてあとはみんな病に倒れてしまったという有様でした。

なかでもソフロニヤは一番ひどくやられ、医師は八十九日間彼女の世話をしてその間ずっと薬を与えていました。しかし九十日目にこの医師は、彼女の容態はじょうにわるくなっているので薬を飲んでもききめはありませんと言い、それで診療をやめてしまいました。翌晩、彼女は死の近づいていることをあらわしている特殊の顔つきをして、眼を大きく見開いたまま、すこしも動かずに病床に横わっていました。彼女がこのようになっているとき、私は一人の母親がいとしい児の生命の最後の火影をながめているように、じっと彼女を見つめていました。私がこのように気も狂わんばかりになっていたとき、私は夫と手をにぎり合って病床のかたわらにひざまずき、私たちの悲しみを切な祈りに託して神さまに申しあげ、私たちの子供の命をいま少しのばして下さいますようお願いをいたしました。

主なる神さまは私たちの嘆願をきき入れて下さいましたでしょう。はい、たしかに神さまはきき入れて下さいました。神さまは私たちが立ちあがる前に、彼女がきつとなおるというあかしを私たちに下さいました。私たちが祈りおわって立ちあがったときに、彼女の息はどうみてもありませんでした。私は毛布をつかむとそれを彼女になげかけ、私の腕にだきかかえると床の上をゆっくり歩きはじめました。その場に居た人々は私のすることに抗議をして言いました「おくさん、それは全然だめですよ。あなたはたしかに気が変になりなすった。御子さんは亡くなったんです」と。それにもかかわらず、私はしばしの間、彼女がもう一度呼吸をして生きるのを見たというのぞみをすてませんでした。

このようなことをくわしく話していますと、もちろん面白くないとお思いになる方もあると存じますが、一生のうちにこれと似たことを経験なさった方々なら、私とおなじ気持ちをもつことができて私に同情をして下さることが出来ます。あなたはいとけない子供を失なったことのある母親ではありませんか。あなたの胸の中にある糸にふれて、私が息たえた子をしっかりと胸におしつけたときの気持ちを言ってみて下さい。あなたはこのようなたえられない瞬間に、神さまが「ねがいもとめるすべての人をでき得るかぎり救う力」をお持ちになっていないと思うでしょうか。私はそう思いませんでした、今でも思っています。

とうとう彼女はむせぶような声を出しました。それでも私は彼女を胸にしっかりおしつけて床の上をあるきつづけました。彼女ももう一度むせぶような声を出し、それから私の顔を見あげて楽に息をしはじめました。私の身も霊も満足しました。しかし私の力はすつ

りぬけてしまいました。私は彼女をベッドの上におろすと、あまりの緊張にすっかりうちひしがれて彼女の横にぐったりとなっていました。

このときから彼女、ソフロニヤは一日一日と快方にむかいとうとうすっかり健康になりました。

第十五章 ジョセフ・スミス(二代目)熱の

あるはれものに苦しむ。

私たちの三男のジョセフは二週間ばかりチフスを病んでおりましたが、ある日椅子にこしをかけているうちに肩のところが痛いと言つて悲鳴をあげました。そして間もなくひどいように痛がりますので、これはいへんなことになりはしないかと心配をしました。そこですぐさま医者に来てもらいましたところ、その医者さまは家へ着くと息子を見て下さいまして、これは肩の筋をちがえたためであると思うとおっしゃいました。しかし、私のところの息子は、とつぜん肩のところがひどいように痛くなっただけで、筋をちがえるようなことは何にもしなかったので、医者さまの言うようではない、肩の痛くなるようなことは何もしないとはっきり言いました。

家の息子が抗議を申し立てましたにもかかわらず、その医者さまはまだ筋をちがえたのにまちがいないと言いはり、肩のところへこやくをはって帰りましたが、これはすこしもききませんでした。とういうのは、肩の痛みはあいかわらずすこしもおならなかったからであります。

それからひどい苦しみの二週間がすぎました。あの子を見ていて下さった医者さまはもっと精密に診察することにきめて診察をし

た結果、肩と胸の間に熱をもった大きなはれものができていたことがわかりました。そこで医者さまはそこを切開してたくさんのお血をとりました。

このはれもののうみが出てしまうと痛みはそこを去って（あの子の言葉で言うと）電光のように横腹を走り下って足の骨髄へ入り、まもなくひどいようになりました。かわいそうにあの子はこれほどと絶望して「お父さん、もう痛くて痛くてたまらないよ」と叫びました。あの子の足はまもなくはれあがりはじめ、あの子はそれからもう二週間ひきつずき世にもひどい苦痛を受けました。この間中、私はできるだけあの子の苦痛をやわらげるためにたいいていあの子を抱いていました。そのために私もしんどい体になるくらいでした。私の受けた心配は働らきすぎとともに私の体にはたえきれなかったので、私の体力はそれがためにすっかり弱ってしまいました。

むしろ目につくほど親切で同情心のあったハイラムは、こうなっている私のかわりに看護をしたいと言いました。この子はたのみになる良い子であったので私たちはそうさせることにしました。そして、できるだけらくに看護をさせるようにジョセフをひくい寝台にねせてやりました。ハイラムはほとんど夜昼、かなりながい間ジョセフのかたわらに坐って足の痛むところを両手で持ち、苦痛になやむ弟が痛みをこらえることができるように手と手をもってそこをおさえつけていました。足の痛みはとてもひどくてジョセフはほとんど痛みにたえられませんでした。

こうして三週間たったとき、私たちはもう一度外科医をむかえにやるのが得策であると思いました。そして外科医が来たとき、この

医者さまはジョセフの足の表側のところをひざがしらからくるぶしの間八インチの長さにわたって切開しました。その結果痛みがたいそうすくなくなつて病人は傷がなおり始めるまでまったく楽でありました。すると痛みがまた前のようにはげしくなりました。そこでまた外科医にきてもらうと、この度医者さまは傷口をひろげて骨に達するまで切開をいたしました。その結果足は再びなおりはじめましたが、なおりはじめるやまた腫れはじめ、その腫れがどんどん大きくなつて行きました。ついに私たちは数人の外科医に協議してもらうことが賢明であると考えました。そしてこの外科医たちが協議のために会合したとき足を切斷するのが唯一の療法であるときまりました。

この結論に達するとすぐに外科医たちは私の家の入口へ車を乗りつけました。そしてジョセフの寝ている部屋から離れている一室へ迎え入れられました。外科医たちの席が定まると私は次のように話しかけました。

「みなさま、私の子供の足を救うためにどのような処置をなさることができますか」。すると、

「何も処置ができません。足を骨のところまで切開してみても患部がひどいように犯されていることがわかりましたから、御病人の足はなおらないと考えます。従つて、御病人の生命を救うためには足を切斷することが絶対に必要であると考えます」というのが外科医たちの答えでありました。これは私にとって落雷のようでした。

私はおもだった外科医にむかつて訴えました「ストーン先生、あなたは別の方法をやってみることでできませんでしょうか。あなたは骨をけずりとつて病氣にかかった部分を取り出すことができます

でしようか。そうすれば健全なところがたぶん癒着しますから、この方法であの子の足は救えるにちがいありません。もう一べんやってみるまであの子の足をとって下さいませ。いいえ、あの子の足をとってはいけません。この約束をして下さるまではあの子のいる部屋へ入っていただくことに私は同意しません」と。

外科医たちはすこしの間互いに協議したすえ、私のたのみ通りにすることを承知しました。それから彼らは苦しんでいるあの子を見に行きました。医者の一人は寝台に近づくと言いました。

「かわいそうに。またやってきたよ」とするとジョセフは

「はい、来たのがわかりますよ。しかし私の足をとりにきたのではないでしようねえ」と言いました。するとその外科医は、

「いやいや、もう一べん骨折して下さいというのが君のお母さんのたのみだから、それでいまやってきたわけさ」と答えました。

(二四四頁より続き)

（四）家庭については、良い家庭をつくる技術は女性のもっている最も偉大な仕事であります。世の母親たちは清潔と節儉と気高い精神の模範になって下さい。子供たちには、父母の間にある愛の模範を示して下さい。また子供たちに、家族生活の神聖なことをわからせて下さい。また神のまことの愛を知らせて下さい。世の人々の標準を向上させるには、正しい生活のあらゆる良いところが教えられているほんとうの末日聖徒の家庭によって向上させることに最も大きな希望がながれています。私は、私たちの教会の婦人会員たちが、まわりの人々に対して岡の上の光になるようお祈りいたします。ほかの人々の覚えている一つのこと、私たちが「何にても徳高きこと、好まじきこと、よき聞えあること」（信仰箇条第十三条参照）の代表者であることであるようにして下さい。



扶助協会 レッスン

「神学」―教義と聖約

(千九百六十三年五月の最初の集りで)

第四十八課 警しめの言葉に用心をせよ、また神聖なものを軽んじてはならない。(「教義と聖約」六十三〇二十一―六十六)

目的―シオンを贖うためには平和な方法をもってせねばならなかったこと、多くの戦争が救い主の来りたもうまで世の人々をなやますこと、「福千年」の間平和な時が来ること、神聖なものを受けがすことは、重大な罪であること等を知ること等を学ぶ。

「御意と誠命」

啓示によって、シオンの市の中心地は(ミズーリ州のジャクソン郡)と指定された。教会の会員たちは、これに関連して如何に為すべきかを知りたがつた。そこで主は、その目的を聖徒たちに知らせた。若しも彼らが主の御意を為そうと望んでいたら、そこに集まっていたはずである。六十三章二十

二節及び二十三節に述べてあるようにに彼らは、これを誠命と思わなかった。主は、すべて従う者の為に、啓示を与える。けれども彼はすべて、その事を命ずるなら、或会員たちは、それに従わないことによって彼ら自身に非難を招くことを知っておられる。結局、この啓示で主は、その御意を守るか、守らないかを各人の決定に任せただのである。主を愛する者は、主の御意を、あたかも誠命であるかのように自ら進んで従うのである。(マタイ伝七〇二十一、教義と聖約八十四〇四十四―四十五、教義と聖約解説 三七八頁)

「祝福としての奥義」

末日聖徒は啓示されていないこととに干渉することは、失望をもたらし、又或る場合には根本的なことに信仰を失う結果となることを知っている。思惑は救いに貢献しない。聖文の合理化は信仰を破壊する。信仰を以て求めるすべての人に知らされる王国の奥義があ

る。(アルマ十二〇九―十一)これらの啓示された真理は、霊の成長になくはならないものであつて、更に個人の救いとなる。人が啓示に含まれる真理を学ぶ時、生ける水の井戸となり、生ける水は湧き出でて永遠の生命とならん。(「教義と聖約」六十三〇二十三、ヨハネ伝 四〇十一―十四)福音の真理に就いての知識と、それを生活に取り入れることに於いて各個人々々によって相違していることをはつきりせねばならない。末日聖徒には聖文中に示された奥義に就いて学ぶ充分な機会がある。シオンの地への集合に就いて聖徒たちは、疫病を起こさないように、急いで旅しないようにと云う奥義を学んだ。(「教義と聖約」六十三〇二十四)

「カイザルの物はカイザルに」

イエスをわなにかげようとして、或る人がイエスのもとに来て、人はカイザルに貢を納めるべきかどうかと聞いた。その時の彼の答えは、同様に今日の神権時代にもあてはまるが国の法に従うように強調されたのである。

カイザルの物はこれをカイザルに返す。(マタイ伝、二十二〇十五―二十二) 教義と聖約六十三〇二

十六、五十八〇二十一―二十二)

この真理は人がイエスがこの地の創造主であるけれども尚、国の法律を尊ぶことを理解する時に強調される。シオンに行く聖徒たちは、その地が彼らの承け継ぐべき地であるとしても合法的な実習に応じて購入せねばならなかったのである。この方法によってのみ彼らは、彼らの隣人と平和に生活することが出来るのである。さもないとサタンが聖徒たちの敵の心を動かし、その上血を流すようににそれのかし、攻めて来る恐れが充分にあるのである。(「教義と聖約」六十三〇二十五―二十八) 主が聖徒たちに、土地を買い、血を流すべきでないことを命じた時、彼は昔に言われた、汝殺す勿れ。(出エジプト二十〇十三)を言われたのである。実際に啓示に示されたのは、土地を速かに買うように、さもなくば、でんてんとして追われるであらうと警告したのである。(「教義と聖約」六十三〇二十九―三十一) B・H・ロバート長老はこの予言に就いて次のように書いてゐる。

……そして状況は一転したのである。聖徒たちはシオンの土地を買うようにすすめられた、その誠命

に従わなかったので、啓示に予告されたすべてのことが彼らの上にふりかかって来たのである。その経過は脅迫として、ジャクソン県の旧い移民に向けられたものでなく、聖徒たちへの警告であった。そして若し血が流されたとしたらそれは明らかに敵の血でなくて聖徒たちの血であった。(末日聖徒イエス・キリスト教会総合歴史一〇二六四)

「戦争の予告」

聖徒たちが主の注告を無視したので、苦しめられるとの警告に次いで主は悪人が不義の故に「みたま」を失って殺し合うと宣言したのである。(教義と聖約六十三〇三十二―三十三)「みたま」が人々から取り去られると亡びが来るのである(ニーフай第二書二十六〇十一教義と聖約註解三八〇頁)その日に恐怖はすべての人に来るのである。何となれば人々は互に戦い聖徒たちもこれを逃がれることは出来ないであろうから(教義と聖約六十三〇三十四―三十五、一〇三十四―三六参照)

一八三一年に又その後、予言者ジョセフ・スミスの時代に聖徒たちは苦難に巻き込まれないようにシモン、の地に来るようにすめら

れたのであった。(教義と聖約註解三八〇頁)シオンに来るべき人は、忠実で義と信仰を以って神に仕える人であればならぬ。悔改めない者に裁きが待っており、主の御意に従うことによってのみ、逃がれることが出来ると、世の人に向かって警告することは聖徒たちの厳粛な義務である。(教義と聖約六十三〇三十六―三十七)聖徒らもまた、ほとんど逃がれることが出来ざらん、は予言者によって一八三九年次のように註釈を加えられた。

……人の子の来たる時に、悪人が苦しめられていた時、聖徒たちがすべての裁きから逃がれると云うことは偽りである。何となればすべての肉体は苦しみに従うのである。義人もほとんど逃がれることは出来ないのである。けれども、正しい人は信仰によって生きる政に尚多くの聖徒たちは逃がれるであろう。けれども多くの義人たちは肉体の弱さの故に疾病や疫病のとりことなるであろう。けれども神の王国に救われるのである。それであるから誰々が病気になるから又は死んだから罪を犯したと云うのは不浄な原則である。何となればすべての肉体は死なねばな

らないのであるから、そして救主は言われた。なんじら人を審く、審かればならぬなり。

「カートランドの聖徒たちへの命令」

六十三章の三十八節から四十七節迄に、オハイオのカートランドの聖徒たちに対する命令が与えられた。タイタスビルングスの農場を処分して、或る者はシオンに行くように特別の指令が与えられたのである。(三十七―三十九)そのようにして受け取ったお金はミズーリに於ける土地購入の為に使用されるべきであった。(四〇)ニューエル・K・ホイットニーは彼の店をつづけて経営し、これによって出来た資金も送るべきであった。(四十一―四十四)彼はこの経営の責に任じ又或る会員はこの時、まだシオンに行かなかつたので彼は教会の代理人の資格で働いた(四十五―四十六)この啓示に示された注告は将来、新エルサレムが建てられる時の型を提案したものである。価値があつたその地に集まるべく召しを受けた者だけがその活動に参加する特権を持つていたのである。忠実な者だけが世に打ち克つのである。主のみわざに堪え忍ぶ者だけが世に

打ち克つ祝福を受けるのである。(四十七)

「主にありて死ぬる者は幸福なるかな」

末日聖徒の死の概念は次の文に述べられている。

シオンの地に財宝を送る者は、この世にありてはゆずれを得、その行為は彼の身に伴い、また来るべき後の世に於いてよき報いあるべし。誠にこの後主にありて死ぬる者は幸なるかな。主来りて古きもの過ぎ行きすべてのもの新しくなる時、彼ら死にし者より、よみがえりその後死ぬることなく聖き町にて主の御前に一つのゆずれを受けん。(教義と聖約六十三〇四十八―四十九)

忠実な死者に就いての大切な事実がこの文の中に見い出される。(一)栄光の家の中で忠実な者に義の働らきに従う。(二)主にあって死んだ者は祝福される。死は祝福である。何となればそれは忠実な者に永遠の生命へ向かつて、より進歩する道を聞くからである。愛する者たちと結ばれる大いなる祝福を受け、地上に於ける、よきたたかいが喜びをもたらすことを覚る。(三)主にあって死んだ者、は将来を恐れることがない。忠実に世に

打ち克つた者には死後の不安定又は疑いと云うものは消える。復活を待つ間の霊の世界は一時的なものであつて最大な祝福は期待出来ないものである。(和死んだ聖徒たちは、墓から復活して彼らに備えられた場所へゆずりをうけられる、キリスト再降臨の日を待ち望んでいるのである。聖なる都(新エルサレム)さえも彼らのゆずりの一部となるであらう。肉忠実な死者は病氣、痛苦、及び悲しみより解放された復活した肉体を持つてあらう。この復活による肉と霊の結合は永久に続くのであつて死は再びそれを分つことが出来ないのである。

「福千年」

肉体の死に次いで、その後主が悪人を裁くべく訪れる迄、地上に於ける一千年間の義と平和の時期に就いていろいろな意見がある。現在の地上の星の栄光の状態は過ぎ去つて月の栄光の状態が優勢となる。死は現世の最も現実的な事項である。それはすべての人に來るのである。けれども福千年は死が悲しみをもたらさない時と知られ、人は樹の齡即ち福千年の人の齡に達した時に死は訪れる(教義と聖約 百一〇二十九—三十一六

三〇五十) この時期の死は、瞬く間に滅すべき体より復活に變るのである。(教義と聖約六十三〇五十一—五十二)

これらのこと、即ち死、霊の世界、復活、キリストの再臨、福千年、地上に於けるゆずりを待ち望みなさい。一八三一年に主の言ひ方によつて言へばこれらのことは、すでに近づいていっているのである。この神權時代の始まつた時より主の来る日の近づいていいることの確信の内に聖徒たちは、人の子の来る日を待ち望みなさいと云う注告に従うべきである。(教義と聖約六十三〇五十三) 主は救い主が訪れる時、正しい生活をするることによつて主を受け入れる準備が出来ていない者が聖徒たちの内に多くいてあらうことを知っておられる。これらの人は、賢い者たちの中の愚な処女」と呼ばれて來た。彼らは律法を待ちこれらのことを知つていながら尚且、これを軽く扱つて、再臨の教義によつて悔改めの生活をするのをしなかつたことに於いて愚かなのである。主は彼らを裁くので彼らは正しい者から分離されるであらう。(教義と聖約六十三〇五十三—五十四) 世の中のかくも多くの人を

支配する死の束縛を知っているすべての人にとつて、悔改めの必要なことは知られている。主はその贖いを通じて罪の赦しをうける恩恵を受けようとしぬ人によつて欺かれぬのである。(教義と聖約六十三〇五十八、教義と聖約註解三八四頁) 今日でもこの状態は背教の結果、存在するのである。人々は主は全能であり、時が來ればすべてのものは彼に従わねばならないことを知るべきである(教義と聖約六十三〇五九—六〇)

「主の名を汚してはならない」

この故に、世の人々々が名を如何様に口に上すかを気を付けよ。見よ、誠にわれ告ぐ、世には多くのこの罪の宣告を受ける者あり。彼らは主の名を用い、空しく主の名を用いておよそ權威なし。この故に、わが教会の人々はその罪を悔い改めよ。さらば主なるわれその者たちをわがものとすべし。然らざれば、彼ら断ち切らるべし。(教義と聖約 六十三〇六十一—六十三)

冒瀆は神又は聖いものを不敬に語ることである。神の名は非常な尊敬の念を以て呼ばねばならない。空しく主の名を用いることは最初から咎められた。(出エジ

プト二十〇七、レビ記二十二〇三十二、申命記五〇十一) 昔のイスラエル人は神を呪ひ又は汚すことはその罪が死刑となる程、重大であることを理解していた。(レビ記二十四〇十六) けれども世はこの主の名を尊ぶべしと言ふ神の命令から如何にかへ離れていることであらうか? 下品な人は自分の誓いと言葉を正当化する為に、意識して、又は故意に主の名を汚している。この世の習わしに就いてジョセフ・フィールディングスミス長老は述べている。

或る人々は自分では強調する為に、使つていと思つていながら二言、三言目には下品な又は冒瀆の言葉を使わずには話せない程、冒瀆的になつてしまつていいる。人柄はその仲間によつて知られると同様に言葉によつても知られる。或る人々又善良な人たちが主の名を含んだ表現をすることによつて話の興味や機智を増し力を加えると思つていいることは、何とおかしなことであらうか? これさえなければ推奨されるべき如何に多くの影画やショウがあることであらうか。末日聖徒たちは地上の如何なる人にもまして聖なることを尊び神聖にしている。世の中には

多くの正直で勤勉で洗練された人があるけれど、このことに就いて私たちのように訓練されてはいない。けれども私たちは聖霊の導きがあり、又主はその啓示によって、厳肅にそのようなことに就いての私たちの義務を教えているのである（イムブル・ヴメントエラ 一九四一年七月 五二五頁）

「神聖なことを軽んずる」

世の人だけが神聖なことを軽く取り扱っているわけではない。予言者の時代に、教会の或る会員はこれを軽んじ、今日でも或る会員はその重要さを感じていない。聖文中に於ける主の言葉、原則、儀式、教会の実習は注意して語られねばならない。何となれば、それは神聖であるからである。神聖な真理をあざけることは主の側に於いて冒瀆である。ニーフアイ人たちは心が高慢になって大きな罪を犯し、みたまが彼らから取り去られたので、その力を失ったのである。彼らの罪の一つは、聖い物を嘲り笑ったからである（ヒラマン書四〇十一—一十三）

人が神聖な真理をあざけてならないと云う真理から、二つの考えが浮かんで来る。一つは人が信じ且つ実行すると告白しながら、

原則に副うて生活しない場合、神聖なものを軽んじているのである。すべての人が最上の生活は、神の意志に副うた生活であると決心すべきである。他の一つは教会の教え又は実習をあまり嘲笑したり、からかたりする気持である。十二使徒会のマーク・E・ピータソン長老の書いた教会の出版物の中に次のような適切な質問がある。

社会の人たちの中にいる時に知恵の言葉を、いい加減にあしらう者はいないだろうか？ まじめなことを茶化したり、まじめな態度を欠く者がいないでだろうか？

私たちの、つましい服装の教えを、軽く考え或いはその標準服装をあざ笑って、それに背く者はいないでだろうか？

神殿に入る人に要求される服装を軽く考えている人はいないでだろうか？

安息日に対する私たちの態度はどうであらうか？ 私たちはそれを軽く考えていないでであらうか？ 又時にはそれを犯すことによって、馬鹿にしているのではなからうか？

これらのことに就いて私たちは自分の態度を反省し吟味する必要がある。又神聖なことを、ないがしろにするこの重大さに就いて銘記せねばならないのである。

主はその仕えられる人によって軽んぜられたり嘲笑されたり、からかわれたり、無視されたりしない。

これらのことに就いて自己吟味し、又決心することは有益なことである。何を決心するのであろうか？ 主に気に入られる者となるかどうかを決めるのである。ふたまたまをかける者となるかどうか、よく働く者となるかどうか、誠実な者となるかどうか、私たちの原則を妥協する者となるかどうか、又事業上の事で或いは社会的名声の爲に少しでも罪を犯そうとする者となるかどうか、などを決めるのである。

若しも私たちが神聖なものをないがしろにするなら、単に不従順であるばかりでなく、あざける者となるのである。

貴方は我々は別に意識してそうしているのではないと云うかも知れない。けれども意識していないと云うそのことが既に無関心、注意の足りない証拠である。そして

神のことを軽く取り扱ってないがしろにしている証拠である。

如何に従順さを示しても、誠実さがなくては救いはないのである。（デゼレット・ニュース・チャ

ーチ・ニュースセクション 一九五八年三月二十九日）

今は誰に従うべきか決める時である。若しも私たちが過去に於いて怠け者であつたとしても、主は悔改める者を喜び迎えるのである。これらのことは、堪え忍ぶことによりて始めて打ち勝つものにして、およそ堪え忍ぶ者は、一層優れ且つ永遠の大いなる栄光を得、然らざる者は更に大いなる罪ありとせられん。（教義と聖約 六十三〇—六十六）

およそ天より来るものは聖きことを覚えよ。故に心してこれを語り、また「みたま」の導きのままにこれを語らざるべからず。さらばこれにて罪あることなく且つ汝ら「みたま」を祈りによって与えらる。この故に、これを為さざればなお依然罪あるなり。

（教義と聖約六十三〇—六十四）

考察のための質問

(一) 聖徒たちが終りの日の滅亡から逃がれることは困難であると云うことは何を意味するか？

(二)教義と聖約六十三章の四十八節及び四十九節に關連して忠実な死者に就いて、六つの点を挙げよ。

(三)主を愛する者は主の御意に従う。ことに就いて討議せよ。

「社会科学」

(千九百六十三年五月の第四の集りで)

「神の律法と教会制度」

第七課「総括」

目的—教会制度の基として神の律法が大切であることに注意を集中させる。

これらによりてわれらは知る、神天に在すことを。この神は限りなく且つ永遠にして、とこしえより、とこしえに至り変ることなき同じ神にして、天と地とその中にあるすべてのものを仕組みたまいし者なり。

(教義と聖約 二十〇十七)

請ふ汝神と和きて平安を得よ。然らば福祿なんじに来らん。(ヨブ記二十二〇二十一)

私たちの学ぶこの講義の目的は神の子たちが最高の日の栄えに救われる為に神権を通して作用する神の律法を理解することである。私たちの教課に於いて、人の福祉

に對する神の関心の証拠に就いて検討して来た。これは神が人を最も立派に導き奨励すべく人に与えた日常の規範、個人的な指示、及び生活の根本原則に伺ひ知ることが出来る。人が神の知恵を認識出来、自己の選択によつて神の律法の価値を彼自身の生活及び達成に關連させる時、彼は創造主の目的に向かつて進歩し始めたのである。

「神の律法」

人が神の生き給うこと及び人は神の靈の子であり、人を創造したことに神性な目的があることに就いて確信を持たない限り、前述の声明はその人にとって殆んど意味がないのである。そのような確信に必要な信仰を以て如何なる人でも、神の律法に表わされた神の知恵を認めることが出来るのである。彼は又同様に、神の律法が神権を通して人の福祉の為に作用していること及び教会管理は神権の活動であることを理解することも出来るであろう。これらのことは

真実であり、神の王国又は主の教会は、神の律法がこの地上に於いて神の名によつて行動する権能を持ち、そして人類の幸福と福祉の為に働らく人々を通して作用する

時、其処に存在するのである。

「人への挑戦」

天地創造の時に地は人類の發展の場所として造られた。地を従えろるもの生けられしを治めよとアダムとイヴに誡命を与えられた時、それは肉体的及び知的両方の能力の進歩の爲の挑戦であつた。この地は、すべての一時的肉体的必需は、努力と英知を働かすことによつて獲得出来るように造られた。同時に人は靈的にも挑戦されたのである。若しも彼が光と真理(この地はこれによつて組織されている)の根源とその波調を合わせ、それを保持するなら、地を従えろと云う彼の使命及び自己完成は、もつと急速に容易となるであろう。

「成功的な生活の爲の指示」

人は援けなくしてこの地に置き去られたのではない。神は生命と救いの計画の目的を覺ることの出来る律法を通じて成功的な生活の爲の指示を人に備えているのである。天父は聖なる神権の権能を持った、委任された、人によつて更に援助される。この権能を通じての天よりの不断的啓示は神の律法を明確にし、又拡大するのである。神権が尊ばれる限り、この援

けは可能である。何となれば神の律法は真理と光への道であるからである。神を拒む者は暗黒に陥る。何となれば神の啓示の光は閉じられ、彼らは自分の考へるのほかに導きを持たないからである。

神の律法は明白で簡單である。

それは神の子たちの相互關係の行爲に關する神の御意の現れである。神の律法は人の神に對する關係を定め、又人のその創造主に對する義務と責任を明確にして、人は心を尽し、精神を尽し、思いを尽し、能力を尽して神を愛するように教えられている。第二の根本的な律法はその隣人を、彼自身のように愛することである。律法は更に律法全体と予言者とはこの二つの誡命に拠ると述べている。……反つて愛をもて互に事へよ。それ律法の全体は「おのれの如くなんじの隣を愛すべし」との一言にて全うせらるるなり。(ガラテヤ書 五〇十三—十四)

「選択の重要さ」

神の律法の本質はアダムに啓示され、各神権時代に人と共に在つて現在に至つた。すべての人類は選択の自由と云う永遠の遺産を受けている。神の律法は教へと説服と堅忍と偽らざる愛によつて人

の心にうえつけられるのである。
愛は神の律法の原動力である。強
制は、サタンの道具であつて神の
計画には存在しない。昇栄の祝福
を享受する為には、人は真理を知
り、キリストの光を受け、自身の
自由意志によって義を選ばねばな
らない。

「悔改めの必要」

最初から或る者たちは光明より
も暗黒を選んだ。各神権時代にこ
のパーセンテージは増加し、遂に
大勢の者が神の律法の外に在るの
である。

各神権時代に主はアダムに啓示
された神の律法を基礎として主の
教会を組織した。何処に於いても
教会が組織される場合、それは神
権の保持者を通じてなされた。教
会の大きな責任は、悔改めとバプ
テスマを教えることであった。次
のような人々に悔改めは呼びかけ
られた。(一)永遠の父なる神を認め
られない人。(二)イエス・キリスト
の犠牲と贖いの使命を受け入れよ
うとしない者。(三)その心を、この
世のものに向けている者。(四)名声
にあるの者。神が反対してい
るの者。知らない人。(五)利己的な
人、貪欲な者及び肉欲や食欲にと
らわれる人。

「真理の光」

次に挙げる各項はアダムの時代
から人類に与えられていた神の律
法からの本質的な教である。(一)
神は生きてまし、人は神にお目に
かされる。(二)イエス・キリストは
神の子であり、その使命は人類の
贖いである。(三)聖霊は霊のお方で
神会の一員であり人類に対し、天
父と御子の特別証人である。彼は
世に対し、光と真理の絶えざる根
源である。(四)人類を啓発する為に
神の知恵が絶えず流れ出るものと
して啓示を認める。(五)イエス・キ
リストの福音及び、人類の達成の
原動力として愛を認める。(六)成長
と進歩の為の個人的な責任、知的
及び霊的進歩に対する永えの挑戦
神の栄光は英智なり。すなわち
光明と真理なり。(教義と聖約九
十三・三三六)

これらの教は、人の神に対する
関係及びこの地上に於ける人の
地位及び目的を正しく理解するに
根本的なものである。神の律法に
は如何なることにも偶然と云うこ
とはない。その教は無智、迷信
又は恐怖に立脚するものではない。
それらは人に行ふの為の最高の
動機(神を愛し隣人を愛す)、
達成の為の個人の責任(選択の自

由)及び知能の無限の成長(キリ
ストの完成の模範)を要求してい
る。神の律法に従うことによつて
人は進歩にとって最も重大な障害
(恐怖、無智及び迷信)を取り除
くことが出来又同時に勢力の分散
から解放されるのである。(当面
するためしや間違つた手段に)人
は神の影響下に近く住むほど、よ
り多く靈感され、又啓示を受け従
つて、より多くの真理と光を得ら
れるのである。このようにより多
くの真理が見い出され受け入れら
れ、真理と光が増加する時、この
真理と光を持つ者に対する悪の作
用はより少なくなるのである。

「神の律法と人の地上の進歩」

人は共通の起源を持っている。
最初の両親であるアダムとイヴは
神の知恵と能力によつて、ここに
置かれたのであった。その創造に
は理由と目的があり、そしてこの
理由と目的は、すべての人が彼ら
の子孫である限り同様で、すべて
の人に適用されるのである。その
計画は選択の自由を含み、これが
効果を奏する為には、霊界に於
ける経験の忘却が要求されるので
ある。そしてその選択が効果を奏
する為には対立の存在も必要とな
るのである。最初の人は刺戟ある環

境に置かれ、神と共に歩き語ること
を許され、この地上の自然の資
源を用いて彼らの必需を充たすよ
うにかり立てられた。このように
人は天から現状に満足しない気持
を植え付けられ、未知なる世界を
調査、発見し、肉体的、知的、霊
的経験から生ずる人生のすべての
困難な問題に対する回答を求める
のである。

すべての人が神の御意の啓示に
従うわけではない。時が経つにつ
れて地上の大部分の者が神との接
触を失つてしまふのである。彼ら
は神の教えから遠ざかり、聖なる
神権の指導精神を失ひ又その行動
に神の直接の影響を失うに至つた
のである。けれども人の子たちは
は、いつでも天よりの靈感を受け
ることが出来るのである。神の霊
の子としてその像に似せて造られ
たことは、すべての人をして向上
するようにならめさせるのである。
この世に来るすべての人は真理の
光であるキリストの光によつて照
らされているのである。(教義と
聖約八十四・四十四・四十六参
照)

今日、私たちは確かに満ち足れ
る時代に生きているのである。神
はこの地上に神権を回復すること

を告げ、教会制度は神権機能の活動化となつてゐるのである。教会は生命と救ひの計画をもたらずように定められてゐるのである。物質的には人類は発明発見の頂点に達してゐる。過去の文化の堆積の上に靈感された光と真理が置かれそこに、人の需要に答え、諸問題を解決する、信じられない程の新しい手段と方法が発展して来たのである。速度と能力と正確さが機械化された私たちの世界を支配するのである。

人類の最大なる遅れは人間干係と理解である。これがこの世に、神への愛と人類に対する関心と愛をもたらずべきイエス・キリストの福音の使命である。

「神の律法と永遠の進歩」

この生涯は生命と救ひの計画の一面面であると言ふことを屢々参照して来た。その計画は天上の大會議に於いて天父によつて提供されたのである。そこで一大決心がなされた。自由意志の永遠の原則が表明された。神の子、イエス・キリストは自ら進んで、人類の贖ひの爲の御父の計画を成就する爲に奉仕し、犠牲とならうとされた。その計画はこの生涯をして、経験を得、訓練を受け、英智を発

展させ、人間干係を調整する爲に与えられた神の律法に従ふことにより永遠の進歩をする爲のものとした。

生命の計画は永遠である。それは神の計画であり、神は永遠である。計画を支配する律法は神の律法であるから永遠である。更に重要なことは、計画を遂行するに当たつて神の名に於いて行動する能力である神権が実在せねばならないと言ふことである。

地上に於いて又は永遠に進歩することは神権の能力に結び付いてゐるのである。神権が満たされることは永遠の進歩の根本である。それであるから神権には重大な意義があるのである。それは即ち、聖任式その他儀式を執行し、又

教会の義務を定める権能で系統以上のものであり、人に与えられた神の創造的能力であり、人の福祉に貢献する行動、制度、活動を造り、工夫し、創始し、神権保持者に対しては重大な成長の道を開くものである。神権は進歩にも適用されると同様に保存維持にも適用される。神権の保持者で神権のダイナミックな創造の重大さを認識出来ない者は恐らく彼らの神権とを召しを体現することが出来ないで

あらう。(ラムバート・宗教的生活の基礎一二九頁)

生命と救ひの計画は進歩であり、絶えずイエス・キリストの完全に向つて動いてゐるのである。

「神の律法と教会制度」

私たちの教課の始めに於て、私たちは神性の定義を神に属するものとして受け入れた。神の律法は地上の神の子たちの福祉に關しての神の心であり意志である。この律法は人類の互干係を規律し、指示を与へるものである。神の律法は、人の心に達成への大いなる挑戦を備えた創造者によつて定義されたように人生の道である。

地を従える爲の指示としてアダムに与えられたものが、神の律法なのである。神の子でありながら人類は一般的に神との直接的な接触から離れてしまつたのである。すべての人に光を与えるのは真理の光であり、これは人間の達成した智的物的進歩の生みの親である。大体に於いて政府は行政を司る。政府の基礎は人が政府の権能を定める爲に、受け入れた同意と、法律の上に置かれてゐる。神の律法と神の知恵は教会制度(政府の縦糸及び横糸である。教会制度(政府)は行動する神権であ

る。

私たちは各神権時代を回顧して神の律法が引き続いて作用していることを知つた。私たちは、主はその委任した僕を通じずしては如何なることをもなさないことを見た。誠に彼の家は秩序の家である。同様に私たちは人との世を造つたのには目的があることに気付いた。目的の主な点は人に不死不滅と永遠の生命をもたすことである。神の律法は永遠なる神から来るものである。それはこの生涯に於いて指令する圧力としての機能を果し、現在この世で人の可能性を充分に達成するように援け同時に、彼らが神の御前に永遠に家庭に在るやうに感ずることが出来るやう準備させるのである。

神の律法は、教会の政府(行動する神権)がその上に設定される土台である。

考察のための考え

(一)イエス・キリストの神性なる使命を理解するに最も本質的なものは何か?

(二)神の律法と人の律法の原動力は如何に相違しているか?

(三)神の影響力は世の人の智的成長に如何なる役割をするか?

(四)キリストの教会の会員たること

は神の祝福を保証するか？ 貴方の答えの理由を述べなさい。

(4) バプテスマを受け、教会の会員となり聖霊と共にあることの智的優越性は何か？

(5) 私たちのこの世に在る主な目的は何か？

参考

六回の前教課及び各教課に与えられた参考。

「仕事会」

(千九百六十三年五月、第二の集りで)

「末日聖徒の家庭」

考察その八「末日聖徒の家庭は訓練の場所である」

目的—訓練と子供の成長に及ぼす家庭の力が大切であることを示す。

この最後の討議として私たちは、討論会を持とう。指導者と三人の会員が皆の前に着席する。各会員は下記三項目の内からの一つの主題に就いて短い話を準備する。指導者の役目は各語手と、その主題を紹介し、時間を見守ることである。そこで彼は討議の主眼点を要約して述べ、更に一同の討論をうながす。討論の主題は次の通りである。

一、結婚に対する準備は播磨時代から始まる。

二、働かねばならないことは子供の訓練の一部であるべきである。

三、仕事は幸福になる為に欠くべからざるものである。

四、よい状態はよい仕事を生ずる。

婚約した二人はどちらも幸福な家庭から来るので子供たちに、よい訓練所である処の幸福な家庭を作るに相違ないのである。子供たちが最初に、愛か又は憎しみを、勤勉か又は怠惰を責任感か無責任を、正直か不誠実を、民主的か暴君的を学ぶのがこの家庭である。若い夫妻は、この訓練は何時から始まるだろうかと問うかも知れない。ここで私たちが二種類の言葉を区別しなければならぬ。感覚の言葉と語句の言葉である。最初の方が、より強い影響力があり生まれたての赤ん坊から始まる。生まれたてのジョーンは、その母が彼を抱いて、やさしく愛の歌を歌いながら育てる時に母を理解しない。彼は母の言葉の意味を理解しないけれども母の愛を知る。彼女の恐怖や、緊張や、愛は直ちに彼に通じる程、この言葉は強いのである。

子供はまず感覚の言葉を通じて自分が家族の一員であることを学び、だんだんと、自分が家族との親密な関係を保つ為に、何かの働きをせねばならないことを知る。彼のほほ笑みと嬉々とした声は、叫び声や、かんしゃく声と違った報いを受け、彼はその欲する処を最も効果的に得る方法を学ぶ。若しも両親が始終一貫、協力してこの子供をしつけるなら、子供は言葉を覚えるずっと前に、家族の日常の仕事を学び自分がその一員として受け入れられる為に、どうせねばならないかを学ぶであろう。これが彼が自分自身の家庭を始めるに必要な少なくとも二十年間の準備時代の始まりである。

貴方は貴方の子供さんたちを、今から十年間、二十年間、五十年間或いは又永遠の彼の進歩への道中を見ることが出来ますか？ 若しもそれが出来て、貴方が子供さんの特長、能力、資質特に強い点、弱い点をよく評価することが出来たら、貴方は彼をよく導き、彼の人生途上に於ける諸問題を解決するように助ける、正しい生活の原則を教えることが出来るのである。これが毎日の生活で貴方の思っていること、為すこと、感ずることが、如何にそれを言い現わすよりも、感覚で、よりよく通じるのである。

すべての人が働いて自立すると云うことは、家族の生活を成功に導く為に大切な事である。子供が自分で出来ることを、してやっ

てはならないと云うことは金言である。彼がボタンをつけれられる時は衣服を与え、自分で結べる靴を与え、自分で食べられる食物を与える。そして完全出来ることを期待してはならない。箱、糸巻及び木片を以て彼自身の玩具を作らせなさい。昼寝や、入浴や食事の時間が来たら、その仕事を中止するように教えない。又クッキーやパンを作るを手伝わせなさい。それから食卓の用意をさせなさい。又皿洗いなども手伝わせなさい。

一つの仕事を覚えたら、何か新しいものを与えて、常にその独創性を生かすように、心がけるべきである。

子供が責任をとれる迄に成長したら、それだけの負担を与えて見るとよい。毎週一定の任務に或る変化を加えて行くことを習

慣とさせなさい。男の子も女の子もベットの作り、床を掃き、皿を洗い、壁を塗り、食事を用意し、芝を刈り、衣服を洗い、庭の手入れ、草花を植え、雑草をとり、玉ねぎをむき、鶏を飼うこと、その他多くの仕事が出来るのである。

これらの仕事が終わったら、きちんと後片付けをすることを教えるべきである。貴方が草刈器や芝刈器を片付けた時貴方は何か一つのことを成し遂げたと感じ、又新しく次の事に向かうことが出来るのである。

よい働らきをするような状態は、どのような状態であらうか？先ず第一に、よい家庭のふんいきお互の信頼、確信、愛が大切で次にその他の価値が考慮されるべきである。すべての人が彼自身のものであると云える或る個人的な場所が必要である。それはベットの下に押し入れた貴重品箱であるかも知れない。或るいは又箆筒の抽き出し、押し入れの中かも知れないが各人が人に犯されない自分の場所を神聖にすべきである。若しも人が一人でいたいと望むなら彼の部屋に入って戸を閉め一人でおらせ、すべての人はそれを尊重すべきである。個人的な黙想、沈

思、読書、祈りは新しい看破力と理解をもたすことが出来る。創造的な趣味を通じて自己を表現することは、よりよい明日の世界をもたす結果となる。子供が特に関心を示したことを自由に探求するようにさせると、よい将来へ導くのである。彼らが、クレオンを持てるようになったらすぐ描かせるべきである。砂や粘土や木片や簡単な道具と働らく場所が当然必要である。その場所は、特別な部屋の食卓であるか或いは又外であるかも知れない。大切なことは特に興味をそるうように準備することである。播いた種は、その生涯に於いて大きく実るのである。

子供たちはお友だちが必要であり、彼らの家庭に招待することを許されるべきである。彼らは美しい家を持っており、お友だちにもその喜びを分かち得ることを誘うに感じ必要がある。彼らはいろいろな家庭的活動を通して文化的及び教育的刺激が必要であり、最も大切なことは礼拝を通して、神の愛により又誠命を守ることによってもたらされる強さが必要なことである。この家族の生活の霊的な面は、会員たちがその永遠な家庭生活の道中に於いて彼らがす

がって進むところの支えとなり援けとなる鉄の棒を備えるであらう。

訪問教師のメッセージ

(千九百六十三年五月の第一週に)

「教義と聖約」にもとづいて実践する真理

メッセージ第四十八「彼ら忠信ならば主の加護あり。また主なるわれ彼らと共にあらん」(教義と聖約六十一〇十)

目的—主の主の与えたもう守護の霊が人生の問題に対抗する力をつけることを強調する。

聖文は主の誠命を固く守って、忠実な者は守護され保存されると云う約束で充たされている。詩篇の作者ダビデは言っている。……その聖徒をすて給はざればなり、かれらは永遠にまもり扶けらるれど。(詩篇三十七〇二十八)。偉大な將軍であり予言者であった、モロナイはモルモン経の中で次のように宣言している。真にわれらが自分らの神に忠義をつくし信仰を堅くして忠実に宗教を守る間は、神がわれらを支え助けて護りたもう。(アルマ書、四十四〇

四)

忠実な者が守られ、救われ、保存されるに就いての主の約束と保証には霊的及肉体的両面がある。或る場合に忠実な者は、肉体的障害から守られる。モロナイによって与えられた約束は、この意味である。けれどもこの約束は、肉体的な意味より、むしろ霊的な意味により多く用いられる。前述のダビデによって宣べられたことはこの永続的な意味を持っている。彼は忠実な人々は、この世の生涯だけでなく、永遠に保存されることを語ったのである。

救主が次のように言われた時、この広い意味を強調したのである。おおよそ己が生命を全うせんとする者はこれを失ひ、失ふ者はこれを保つべし。(ルカ伝、十七〇三十三) この聖文に示されているように人がその生命を失った時に、彼は肉体的に保たれない。けれども救主が約束したように人が若し彼自身を、その生命を他人への奉仕又主への奉仕に、失うなら、彼はその靈魂を保って永遠の生命を得るのである。救主は人の靈魂が救われる方が、この世の生命を保存されることより遙かに大切であることを繰り返し強調して

おられる。人、全世界をまうくとも、己が生命を損せば、何の益あらん。(マルコ伝八〇三十六)

靈的に保存されると云うことは悪から解放されること、主のみにまに守られること、真理に対する確信を堅持することを意味する。それは義の内に支えられ高められ、主の最善の賜である心の平安を祝福されることを意味する。

テムブル・ベイリーは、その印象的な物語の中で、その人生を踏み出そうとして、その途上に於ける困難さ、道中の長さを気にしている若い母親に就いて告げている。彼女の案内者は彼女に言った。はい。道は困難です。そして貴女は終点に到達する前に老人となるでしょう。けれども終りは始めよりも、よいでしょう。

この物語の中で若い母親は信仰と確信を以て彼女の問題に当たった。けれども彼女の子供たちが成長し、病氣となった時、悲しかった。そしてその道は荒れ、暗かった。子供たちは不安に恐れた。けれども彼らは母親を信じ彼女は保護の愛のマントを以て彼らを覆った。そこで母親は彼女の案内人に言った。この数日は、明るかった日よりよかった。何とな

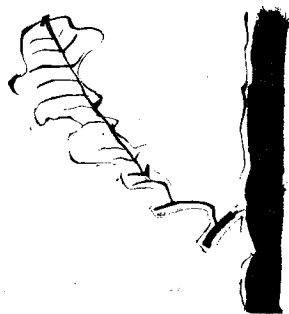
れば、私の子供たちは勇気を学んだから。

この物語には母親と子供たちがいろいろな問題や困難の経験を通して、信仰と愛の真の意味を知り又主のお守りを常に確信する必要を学んだと云う話が更に続いている。彼らは信仰を以て、辛いこと、及び甘いこと、両方の人生の経験を通じて、主が彼らの資質の成長を助け、以て彼らの靈的な強さを保つことを学び、そして、終りは始めよりも、よいことを覚ったのであった。

ヒュー・ビー・ブラウン副管長は言った。人は或る場合に逆境失望、悲劇が単に罪と不従順の結果からのみたらされるものであると云う誤った印象に作用される。試練は、恐らく或る大きな教訓を教える為、もたらされるかも知れない。私たちは岩の上に建てられた家に風が吹き雨が降ることを覚えるべきである。約束は暴風から逃がれることでなく、そのように立ちつづける者はその暴風に耐える力を持つてあらうと云うことである。(永えの探求 二四七頁—三四八頁)

私たちは、いろいろの人生の問題から免がれられず又或る悲劇か

ら逃がれることも出来ないかも知れない。けれども主は私たちに、盾として守りのみたまを与えらるであらう。彼の能力は私たちの能力となるであらう。そして若し私たちが真に忠実であるなら、私たちは恐れる必要はないのである。何となれば、私たちは主の慰めのみたまを受け、私たちの霊がこの生涯及び永遠を通じて保たれるであらうと云う主の確証を持つことが出来るからである。



and tell His disciples that he is risen from the dead; and, behold he goeth before you into Galilee; there shall ye see him... "Mary Magdalene ran ahead and saw two of the disciples and told them that they had taken the body of Jesus. *Peter* and *John* ran quickly to the tomb and saw that it was empty. "Then the disciple went away again unto their own homes." But Mary stayed near the tomb and went *inside* and saw two *angels* who asked her why she was *crying*. She answered, "Because they have taken away my Lord and I know not where they have laid him." When she turned around, she "...saw Jesus standing and knew not that it was Jesus." In a moment Jesus spoke to her, saying "...Woman, why weepest thou? whom seekest thou?" Mary thought that He was the *gardener* and she asked him if he knew who had taken Christ away. Jesus could tell that she did not know who he was so he called her by name, "MARY" Immediately, Mary knew that it was Jesus and she called him, "MASTER". He spoke to her again and told her that she *could not touch* him "...for I am not yet *ascended* to my Father; but go to my brethern and say unto them, I ascend unto MY FATHER, and your FATHER; and to my God, and your GOD." During the days that followed the *RESURRECTION*, Jesus appeared often to his *apostles* and told them to teach the things that he had taught them in His name among all nations, beginning at Jerusalem. Then Jesus took the apostles to *Bethany* which is near Jerusalem "...and he lifted up his hands, and blessed them, he was parted from them, and carried up into heaven. And they *worshipped* him and returned to *Jerusalem* with great joy."

WORDS

NAMES and things	PHRASES	WORDS	VERBS
Mary	arose from the dead	angels	guard (guarding)
Easter	would happen	watch (guard)	departed (depart)
Jesus Christ	hurried back	earthquake	afraid
Jewish Sabbath	taken him away	enemies (enemy)	cry (crying)
Joseph	go quickly	gardener	ascend (ascend)
Priest	could not touch	tomb	worshipped (worship)
Pharisee	special day	sepulchre	
Pilate	apostle	apostle	
Mary Magdalene		inside	
Peter			
John			
"Master"			
Bethany			
Jerusalem			
RESSURRECTION			

SEITO NO MICH, EGO PLAN APRIL
THE STORY

EASTER, A VERY SPECIAL DAY

(Missionaries, there is not room to document the scuajates theyean easily be fouad in maythew, mark, huk and John.)

AND THE ANGEL ANSWERED AND SAID UNTO THE
WOMEN, FEAR NOT YE: FOR I KNOW THAT YE
SEEK JESUS, WHICH WAS CRUCIFIED.

HE IS NOT HERE: FOR HE IS RISEN, AS HE SAID,
COME SEE THE PLACE WHERE THE LORD LAY.

MATTHEW 28:5-6

Easter is a very *special day* in America, because we believe in *Christ* and Easter Sunday is the day that Christ *arose from the dead* to live again. The story of Easter began on a Friday many centuries ago, the day before the *Jewish Sabbath*.

It was a day of great saddness for the friends of Jesus, because his *enemies* had hung him on a cross.

After Jesus died, His friends put His body in a *tomb* hollowed in the rock. Then Joseph "... rolled a great stone to the door of the *sepulchre*, and *departed*."

The next day many important people called "*Priests*" and "*Pharisees*" came to *Pilate* who was a judge and told him that they remembered that Jesus had said that after three days he would rise from the dead and live again. Many people did not believe this *would happen*, but they wanted to seal the tomb and place soldiers to guard it for three days "... lest his disciples come by night, and steal him away, and say unto the people, He is risen from the dead..." Pilate was willing and said to them, "... Ye have a watch. go your way, make it as sure as you can." And that is what they did.

When the Sabbath Day had ended, the first day of the week came and *Mary Magdalene* and *Mary* went to the tomb. But before the women had come, there was a great *earthquake* and an Angel from heaven came and "rolled back the stone from the door, and sat upon it." The men who had been *guarding* the tomb were so *afraid*, as soon as they could, they *hurried back* to the city to tell the priests what had happened. The Priesrs did not want the people to know the truth so they gave the men money to say that Jesus friends had come and *taken him away*.

When the two women came to the tomb, the angel said "... go quickly,

- I. READ THE ENTIRE STORY FOR THE CLASS, using the same procedure as before, having them read phrases and sentences. Be sure that the entire story is covered.
- II. Pronounce all of the practice phrases, names and words at the end of the story calling on various members of the class to make sentences with these words.
- III. Ask the class for the short sentences they were to have written about Easter using at least four words from the word list. First ask for the words they use and write them on the board and then have them read the sentences. If no one has material prepared, select three words from the story and have various students stand and talk about Easter the story using these three words.
- IV. SELECT a short paragraph from the story and dictate it to the class while they write, select a few to read what they have copied and make corrections.
- V. Make sure there is time at the end, so you can talk about the RESURRECTION and use pictures from the Eras. Read the story once again for the class, having your companion use the flannel pictures which can be found in the INSTRUCTOR.

Be sure to request questions about the story.

There are a number of scriptures in the story, for interest have several Bibles and request some one to read the scripture in English and then in Japanese. This can be a most important proselyting effort.

TION which is happening right now. It also, shows a special action that is NOT complete at this moment.

2. This simple present tense also expresses a general fact or a repeated action.
3. The verbs LIKE, KNOW, UNDERSTAND are used in the simple present tense, but NOT in the present tense with ING.

EXERCISE: Have the students supply the form of the verb needed. Then have them use different verbs to form sentences with ING. LIST A NUMBER OF VERBS ON THE BOARD FOR THEM.

EXAMPLE: John (LOOK) is looking for his book.

Is John (LOOK) looking for his book now?

1. Holly (GO) to the store everyday.
_____ Holly (GO), to the store now?
2. He (SPEAK) English well.
_____ Larry (SPEAK) English now?
3. The neighbor (PLAY) golf every Saturday.
_____ Is he (PLAY) golf today?
4. Does Joan often (ASK) many questions?
_____ Joan is always (ASK) questions.
5. Our teacher always (PRONOUNCE) the new words for us.
_____ the teacher (PRONOUNCE) the words now?

VERBS For sentences

- | | |
|-----------|------------|
| 1. cry | 7. worship |
| 2. sit | 8. work |
| 3. depart | 9. have |
| 4. sing | 10. rain |
| 5. buy | 11. catch |
| 6. do | 12. pull |

- III. Request that the students prepare several sentences about Easter using 3 to 4 words from the list at the end of the story.

TALK About other Easter customs, rabbits, eggs, Easter hunts, Easter hats and etc. Then ask them to tell you about Japanese holidays or events that come in April.

APRIL 25 THIS WEEK TAKES PREPARATION!

THIS ENTIRE WEEKS LESSON WILL COME FROM THE STORY, IT IS IMPORTANT TO TELL THEM OF THE RESURRECTION AND TO EMPHASIZE ITS IMPORTANCE.

6. WHO WROTE ON THE BLACK BOARD?
7. HOW MANY WINDOWS ARE THERE?
8. WHAT TIME IS IT?
9. WHERE IS THE _____ ?

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. ROOM | 21. SHOES |
| 2. WALL | 22. BOX |
| 3. DESK | 23. DOG |
| 4. RULER | 24. CARD BOARD |
| 5. VASE | 25. PAPER |
| 6. FLOWERS | 26. LIGHT |
| 7. CLOCK | 27. CEILING |
| 8. FLOOR | 28. BOOK CASE |
| 9. PICTURES | 29. BASKET |
| 10. RAIN | 30. WASTE |
| 11. DOOR | 31. SWITCH |
| 12. ERASER | 32. DRAPES |
| 13. OPEN | 33. WORDS |
| 14. WINDOW | 34. FRUIT |
| 15. CURTAIN | 35. TENNIS |
| 16. 3 O'CLOCK | 36. BALL |
| 17. BLACK BOARD | 37. SPORTS |
| 18. CHALK | 38. RACKET |
| 19. CHAIR | 39. BAT |
| 20. APPLE | 40. DUST |

APRIL 18

- I. Read the entire story for the class then re-read the previous three weeks with emphasis on this weeks section (April 18).

Chose various members of the class to read short phrases and sentences from the story, discuss the story and answer any questions concerning words, pronounciation and meaning (this takes missionary pre aration, but the story is IMPORTANT.)

- II. THE SIMPLE PRESENT TENSE AND THE PRESENT TENSE WITH ING.

EXAMPLE: Does Carol play the organ?

Yes, she plays the organ.

Is she playing it now?

No, she isn't playing the organ now.

1. When ING is used in the simple present tense it shows AN AC-

the students papers and correct the errors.

III. Ask for the short sentences they were to have written using one of the pictures and the words listed. If no one is prepared, go back to lastweeks pictures and have a few students talk about the pictures and the words.

IV. When to omit the DEFINITE ARTICLE THE.

1. The DEFINITE ARTICLE - THE can be omitted before the names of people if Mr., Miss Mrs. or Dr. comes before the name. It can also be omitted before ceratin proper names like, cities, states, languages.

1. Miss Smith is a teacher.

2. Arizona is in southwestern America.

3. Joan is studying German.

V. Talk about the following picture with the class, if possible draw it on the board and with the words listed have the students construct sentences about the picture. Then have them talk about the picture using new words of their own, when new words are mentioned write them on the board for the benefit of the class. Ask if there are some who do not know the words meanings, then have the person that used the word explain the meaning in English and Japanese.

1. WHAT KIND OF PEOPLE USE THIS ROOM?

2. WHAT DO PEOPLE DO IN THIS ROOM?

3. WHOSE ROOM IS THIS?

4. IS THERE A RADIO IN THE ROOM?

5. WHAT COLOR IS THE ROOM?



These two people are _____?



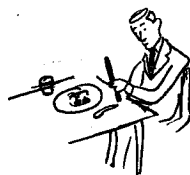
CHAIR	TALK
TABLE	LISTEN
RADIO	SIT
BACK	LOOK
DOG	FLOWER

This man is _____?



PAPER	RIDING
TRAIN	CROWD
MORNING	PEOPLE
HAT	MONEY

This man is _____?



GLASS	MILK
EAT	FISH
FOOD	CHAIR
MEAT	MEAL
FORK	WEIGHT

This woman is _____?



WRITE	LIGHT
LAMP	PICTURE
LETTER	APPLE
JAPAN	WALL
HOUSE	TABLS
	BOYS

Ask each student to prepare a few sentences for next week using one of the pictures and the words.

V. LEAD INTO MIA using *HOW MANY*. Write How Many and SING, DANCE, LEARN and HAVE FUN on the board.

1. HOW MANY like to *LEARN*?
2. HOW MANY like to *SING*?
3. HOW MANY like to *DANCE*?
4. HOW MANY like to *HAVE FUN*?

If you like all these come to MIA.

APRIL 11

- I. Read the first two sections of the story for the class, re-reading this weeks section.
- II. Have the students take paper and pencil and copy as you dictate (Slowly) the entire weeks section to them. Select two or three of

SEITO NO MICHİ

ENGLISH PLAN - APRIL

APRIL 4

- I. Read the entire story for the class and re-read the section for April 4th.

II. How to use *HOW MANY* and *HOW MUCH*.

1. *HOW MANY* is used in questions that ask the number or quantity of things. It is always *PLURAL*. The answer to questions that ask *HOW MANY* usually include a number or such words as *SEVERAL, MANY, FEW, SOME*.
2. When *HOW MANY* comes before a plural noun it is an adjective, but when it is used alone it is a pronoun.
3. Use these sentences to ask the class and then have them ask on another questions using *HOW MANY* or *HOW MUCH*.
 1. How many people are here tonight?
 2. How many days are there in April?
 3. How many sisters do you have?
 4. How many go to your school?
 5. How many of you like to dance?
4. *HOW MUCH* is used just like *HOW MANY* except it always refers to things, while *HOW MANY* can refer to things, places or people.

- #### III. Below is a list of words, assign them to several students to ask questions of other students using *HOW MANY* or *HOW MUCH*. SUGGEST the they use *HAVE* or *ARE THERE* in the sentences. EXAMPLE: How many chairs are there?

There are 25 chairs.

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. guards | 6. people |
| 2. books | 7. this |
| 3. doors | 8. nights |
| 4. friends | 9. enemies |
| 5. special days | 10. soldiers |

- #### IV. Below are several picture with words listed by them, have various students talk about the pictures using the words listed. Be very attentive to pronunciation. These pictures and words can be used over and over again through out the month if time runs long.



今月の表紙

予言者アビナダイ悪王ノアの前で世にはびこる罪惡を非難する。

参照聖句	モーサヤ書	11章	1節～2節
〃		12章	1節～18節
〃		13章	1節～6節
〃		17章	1節～20節

編集後記

企画を色々と計画していたのに結局、「予言者のことば」一つだけになってしまった。

▲復活祭が近くなると、やっと春らしくなってくる。陽気が暖かになればきっと、教会堂の建設も急ピッチで進められるだろう。勤労奉仕宣教師も働きやすくなって助かるだろう。

北支那神崎良太郎兄弟の投稿だが、いつみても気持のよい文章だ。来月は勤労奉仕宣教師を一人一人紹介する原稿を依頼してある。彼ものべているように、一人でも多くの会員が建築場に押しかけて仕事をするように望みたいものだ。

▲教会歴史粹、久しぶりに載せることができた。紙面の都合でしばらく休載していたが、これからおもしろくなる所だけにできるかぎり都合をつけて載せて行きたいと思っている。

▲それから、最近以前載っていたような投稿原稿を載せないが、方針が変わったのかという問合せが多い。

最近の「聖徒の道」はレッスンや、ガイドの形で必ず載せなければならぬ種類の原稿が増加している。それが原稿を載せられない原因だが、決して募集を中止したのでもなければ方針を変えた訳でもない。従来通りどんな原稿でも結構、どしどし送っていただきたいと思う

▲五月号は扶助協会のレッスンがお休みになるので投稿特集をやってみたいと思う。

(K)

月刊「聖徒の道」第七巻第四号

一九六三年四月一日発行

実価 一カ年 九一二円 共

半カ年 四五六円 共

一部 七十円

編集兼 発行人
ダウエン・N・アンダーセン

発行所

東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

聖徒の道

1958年3月17日

第3種郵便物認可第7巻第4号

振替口座 東京 76226 番

発行人 兼編集人 ダウエン・N・アンダーセン

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14

